週刊 YEARBOOK

1971 昭和46年 日録20世紀

9|16
平成9年9月16日発行
(毎週1回発行)第1巻第29号
¥560
講談社

元祖ネズミ講「天下一家の会」に踊った人々

「1ドル＝360円」時代が終わった！

"ナンバー2"林彪墜落死事件の「真相と犯人」

マクドナルド1号店開店！

36時間の突貫工事で〝日本上陸〟
マクドナルド1号店、銀座・三越に開店！

▼東京の銀座・三越1階、銀座中央通り側にオープンしたマクドナルド1号店。ハンバーガーの手軽さは、歩行者天国を歩く若者の人気を集めた。　日本マクドナルド提供

日本初の本格的なファーストフード店が東京・銀座にオープンした。世界一のハンバーガーチェーンのマクドナルドである。米を主食にしてきた民族がそう簡単にパン食に変われるはずがない、という声をよそに、マクドナルドは若者の支持を受け、一大外食産業に成長していく。

マクドナルド開店に二〇〇〇人が殺到

昭和四六年七月一八日午後六時、東京の銀座四丁目交差点の角にある三越デパート一階の財布売り場（約七三平方㍍）に、デパートの閉店を待っていた七〇人の男たちが走りこんだ。中にはハンマーでショーウインドウを、派手な音を立ててたたき割るものもいた。売り場のケースなどが手際よく取りのぞかれていく。空っぽのスペースに、電気、水道、ガスなどの配線、配管が行われ、別の場所で組み立てられた調理器具などのユニットが運びこまれた。その間、看板が、クレーンから落ちるなどのアクシデントもあったが、何度もリハーサルを重ねてきたスタッフたちは、脇目もふらず、ものに憑かれたように作業を進めた。突貫工事は三六時間におよんだ。

そして七月二〇日午前六時、三越の一角には、まったく装いを新たにしたハンバーガーショップがお目見えしたのである。文字どおりの「三日普請」であった。今にいたるまで全世界のマクドナルドチェーン一万八〇〇〇店に伝説として語り継がれている、日本第一号店の誕生秘話である。

▲昭和46年7月20日、マクドナルド日本第1号店のオープニングセレモニーのひとコマ。夏休みのアルバイトで集められた、アメリカン・スクールの生徒たち。　共同通信社

◎表紙　昭和46年のボウリングブームの立て役者、女子プロ・中山律子。躍動感あふれるフォームとさわやかなルックスが魅力だった。

36時間の突貫工事で"日本上陸"
マクドナルド1号店、銀座・三越に開店!

後に触れるように、日本マクドナルドの藤田田社長（四五）は三越銀座店への出店に固執していた。そして三越側の岡田茂専務（五六）と繰り返し折衝を重ねた。岡田が最終的に持ち出したのは「店舗改装工事を営業時間内に行わないなら」という条件だった。つまり日曜日の閉店から、定休日の月曜をはさむ四〇時間で改装せよ、と言うのである。

「通常、一ヵ月半くらいはかかる工事でした。無理難題に等しかったけれど、ここに出店することは、広告費にすれば何百万ドルに匹敵する。芝居の舞台転換の手法をヒントに、無我夢中でやりました」

と藤田は言う。

オープニングセレモニーには、マクドナルドの総帥レイ・クロック米本社会長の顔も見られた。

夏休み初日とも重なった猛暑のその日から、店頭には連日二〇〇〇人もの若者が押しかけ、一個八〇円のハンバーガーが飛ぶように売れた。当時、もりそばが一〇〇円であった。実のところ「米食民族である日本人が、パンで満足できるはずがない。ハンバーガーショップなど三ヵ月ももてばいい方だ」という声が根強かった。ところが昭和三〇年代からじわじわと浸透してきたインスタント食品に親しみ、給食でパン食にも慣れていた若者世代は、ごく自然にハンバーガーを受け入れていったのである。そして客層も、当初の長髪でジーンズの若者だけでなく、子連れの主婦などへも拡大していった。食事にアメリカ風のファッション感覚が取り入れられたと言ってもいい。

さらに当時現れ始めていた社会構造の変化も、マクドナルドにとってフォローの風となった。女性の社会進出や、核家族化の進行、遠距離通勤などである。立ち食いや子どもの買い食いに眉をひそめ、日本の食文化や作法の崩壊だとする一部の声を尻目に、手軽で便利な外食は天井知らずの成長をとげた。

▲昭和51年8月にオープンした那覇・国際通り店の店内。接客にあたるパートタイマーは、各店備えつけのビデオで、お辞儀の角度、目線の位置まで徹底的に教えこまれる。 日本マクドナルド提供(2点とも)

▲1号店の開店式での藤田田社長(右)。中央はクロック米本社会長。

米国式のマニュアルに日本の独自性を加味

マクドナルドの市場戦略は、本国の調理システムや販売方法をそっくり輸出するところに特徴があった。マクドナルドの味は世界のどこでも同じ味、がセールスポイントでもあり、自負でもあった。それに加え、徹底したマニュアル管理も忘れるわけにはいかない。マクドナルドでは調理の仕方から接客マナー、清掃・安全管理にいたるまで、社員の仕事のすべてに関して、二万五〇〇〇項目にのぼるマニュアル化がなされているのである。だが、アメリカ式を丸ごと持ちこもうとしたマクドナルド・チェーンと、藤田ら日本側とは時として意見を異にした。

藤田は「アメリカ側は技術の提供をしてくれればそれで充分。それ以上踏みこんでもらっては困る」と、一歩も引かず食い下がった。

たとえば店のネーミングそのものから食い違った。アメリカ側は、あくまで英語の発音に忠実な「マクダーナル（ズ）」を希望。これに対し藤田は「日本で成功するためには、そんな発音しにくい名前では駄目だ。日本のフィーリングに合った、マクドナルドでいく」と押し切ったのである。第一号店の出店候補地についても、アメリカ側は、車で来客する人が多そうな茅ケ崎を主張したのに対し、藤田は頑強に銀座を主張した。

「マクドナルドの開店は、米を主食にしていた日本人に新しい食文化を紹介することにほかなりません。当時、日本に海外から輸入される最新の文化は、東京、中でも銀座から発信されていました。ですから私は、第一号店は銀座、それも四丁目交差点の三越以外にない、これが駄目なら事業はうまく行かないとすら思っていました」

このようにマクドナルドは、アメリカ式の徹底した合理主義的手法に加え、日本独特の方式がミックスされて生まれた、アマルガム（合成物）とも言える。

マクドナルドは、この年のうちに都内の代々木、大井など五店を出店、五年後には一〇〇店舗を達成、三越店は契約切れで閉店したが、昭和五〇年代には毎年売り上げが一〇〇億円ずつ増加するという驚異的な成長をとげた。そして五七年に外食産業の売り上げナンバーワンに躍り出て以来、現在まで二位に大差をつけ、揺るぎない地位を確保している

平成八年の日本マクドナルドの売り上げは二九八八億二四〇〇万円、そして店舗数は二一〇四店にのぼる

ファーストフードの"1号店"はこんなだった

●昭和45年11月

ケンタッキーフライドチキンが名古屋に開店

同年3月に大阪で開催された日本万国博に実験店を出店し、1日で280万円の売り上げを記録。11月に1号店である名西店を開店した。当時のメニューはフライドチキン1本100円、コールスロー200円、スナック（チキン2本、ポテト、ロールパンつき）280円。

▲マクドナルドと並ぶファーストフードの"横綱"の日本第1号店。三菱商事との提携で進出した。

●昭和47年6月

モスバーガーが東京・成増に開店

脱サラした創業者・櫻田慧氏が仲間二人と開業。1号店は成増駅前商店街にある八百屋の倉庫の一画を、スタンド形式のハンバーガーショップに改造した。メニューはハンバーガー80円、モスバーガー120円、フルーツバーガー50円、アメリカンコーヒー60円。

●昭和47年9月

ロッテリアが東京・日本橋高島屋に開店

創業当時の売れ筋はシェーキなどのドリンクだった。52年、バーガー類初のヒット商品になったのは日本人になじみの深い食材、えびを使用したえびバーガー。創業当時のメニューはロッテリアハンバーガー100円、チーズハンバーガー120円、イタリアンホット100円、ロッテシェーキ80円。

一攫千金の夢に踊った人々！
会員七〇万人、二九〇〇億円を吸い上げた
元祖ネズミ講「天下一家の会」の"虚構"

▶強制調査の10日後の6月15日、熊本市の「第一相研」新事務所落成式で、入場する内村夫妻。 読売新聞社（3点とも）

昭和四六年六月五日、「二〇〇〇円がすぐに一〇〇万円になる」という触れこみで全国から会員を集めていた、熊本市に本部を持つネズミ講組織「第一相互経済研究所」に国税局が強制調査を行った。「昭和元禄」の浮わついた風潮の中で、一攫千金を夢見る庶民心理を巧みに突いた特異な経済事件だった。

カリスマ内村会長に二九億円の脱税容疑

熊本駅から歩いて一五分ほどの距離にある「第一相互経済研究所」に、熊本国税局の係官が足を踏み入れたのは、昭和四六年六月五日朝のことだった。「二〇〇〇円の元金がすぐに一〇〇万円になる」と、全国の会員から巨額の金を集めていたネズミ講組織にメスが入れられたのである。国税当局だけでなく、警察も検察も、急速に膨張していた同会の動向に注目していた。しかしこの時点の法律では、同会に手を触れることはできなかった。違法行為すれすれではあったが、詐欺罪にも、出資法違反にも問えず、手の打ちようがなかったのである。これに対し、国税当局は集めた金が内村健一会長（四四）個人の事業収入にあたるとして、所得税法違反の疑いで強制調査に踏み切ったのだった。当時としては史上最高の個人脱税で、脱税額は重加算税を含めて二九億円前後にのぼるとされていた。

昭和四三年に「天下一家の会」を主宰する内村健一が始めた「親しき友の会」は、希望者が二〇八〇円を納めて入会し、新たに四人の新規会員（子会員）を勧誘させるシステムだった。そして子が孫、曾孫とネズミ算式に会員をふやし、六段階下までの会員獲得が成功すれば、一〇二万四二〇〇円を手にすることができる、というものだった。これはいわば小口会員で、内村会長はその後、最初の納入金が異なるメニューを次々に作り出していった。昭和四四年七月に発足した「相互経済協力会」に続いて、「交通安全マイハウス友の会」「中小企業相互経済協力会」が相次いで生まれた。これらは納付金の額が四万円から六〇万円となっていること、金額に応じて受取金が異なることと、をのぞけばほぼ同じシステムだった。ちなみに六〇万円のコースは、三三〇〇万円が受け取れると喧伝されていた。これらの講の総元締めが「天下一家の会」であり、その下に「第一相互経済研究所」がおかれ、さらに各講が附属するという構造だった。

九州から始まったこのネズミ講は、口コミで全国各地に蔓延し、強制調査の時点で、会員数は実に七〇万人、集めた金はトータルで一九〇〇億円にも達していたのである。

内村は大正一五年、熊本県に生まれ、戦時中は特攻隊員として、愛媛県の松山基地にいた。「昭和二〇年八月一七日に突撃せよ」という命令を受けていたのである。しかしその二日前に敗戦を迎え、出撃しないまま復員した。

戦後の内村は、第一生命の優秀な外交員として鳴らしたが、四一年に糖尿病で入院したのを機に外交員をやめる。一カ月の入院期間中に彼が考え出したのがネズミ講だった。外交員時代につちかった巧みな弁舌を駆使し、徐々に会員をふやしていった。ネズミ講被害者の救済訴訟を手がけてきた弁護士の安彦和子弁護士は、内村の印象をこう語る。

「けっして雄弁ではないし、しゃべりがスムーズでもない。しかしカリスマ性があった。あの麻原彰晃にも似た、特定の人を惹きつけるカリスマ性がね」

▼内村愛用の「ベンツ600型」11人乗りリムジン。日本に3台しかなかった。

▼胴体に「天下一家」と大書された、内村会長の自家用機「パイパー」とチャーター機の「ビーチクラフト」（手前）。

続発する同類事件 マルチ商法の原型

当時の日本は、高度成長が続き、永遠の〝右肩上がり〟を信じていた人も多かった。そして金に対する感覚も大きく転換してきた時期であった。会員の中にはこんな動機を持つ人もいた。「独占企業がうまい汁を吸っている日本で、庶民が夢を持てるこんな会があってもいいんじゃないか」と。この会員は一〇万円コースで、約二〇万円を手にした岐阜の自動車整備工場主である。

役場が組織ぐるみネズミ講にはまってしまった町もあった。熊本県上益城郡御船町では、内村会長から庭園つきの別荘と山林あわせて五五〇〇平方㍍（一〇〇〇万円相当）の寄付を受けた。その弱みもあって、町長が助役を、助役が収入役と建設課長を勧誘、数日で役場の末端までが会員となってしまったのである。しかも末端では、さらに次のネズミを見つけるため、役所の中で勧誘するものがいなくなった係長級や平職員が、一般町民に勧誘の手を伸ばし、ネズミは町中にふくれあがっていったのである。

ところでこのネズミ算は、計算どおりにふえるとすれば、倍々ゲームなので二八代目に達すると日本の全人口を越えてしまう。ところが講は会員が無限にふえ続けないと破綻する。冷静に考えれば、誰にでもわかる理屈だが、ごく一部の「先祖」が儲かった実績を広めたため、全国から会員が殺到したのだった。

講は、中世以来日本の村落社会に根づいてきた相互扶助組織だった。そして「天下一家の会」も例外ではなく、「金に困った庶民の相互の助け合い」をうたっていた。「助け合いの世界を作ろうと思ったんですたい」とは、内村自身の言葉である。

だがその一方で内村は、六人乗り双発飛行機六機、小型ヘリ一機のほか、ベンツのリムジンを乗りまわす暮らしぶりだった。また、熱海や阿蘇、那覇など全国一〇ヵ所以上に保養所を設置してもいた。

この事件をきっかけに、昭和五三年に「無限連鎖講防止法」が作られ、ネズミ講が法律で禁止された。さらに内村自身には、五五年に熊本地裁から破産が宣告され、「天下一家の会」の活動は完全に破綻する。内村は平成七年一月、腎不全で死去するが、被害訴訟は今も続いており、事件の幕は下りていない。それどころか、その後も次々と同様なネズミ講が登場している。法の網をくぐるため、商品を媒介するという形を取ってはいるものの、基本構造はまったく変わらない。その意味でも「天下一家の会」事件は今もピリオドを打ってはいないのである。

▲7月23日、差し押さえ処分に抗議する「ネズミ講」会員約300人が、東京の国税庁に押しかけた。 朝日新聞社（2点とも）

▲6月5日、国税局の強制調査を受ける内村健一会長。

女たちの肖像

結婚式は栄光の山頂で！今井通子が登りつめたアルプス三大北壁の〝彼方〟

稲葉真弓

秘境ブーム、離島ブームなどレジャー時代のこの年の夏、登山家・今井通子（二九）がグランド・ジョラスの北壁登頂に成功。彼女はこれでマッターホルン、アイガーに続いて女性では初めてアルプス三大北壁制覇をなしとげ、世界の登山史に大きな足跡を残すことになった。

昭和一七年東京・世田谷生まれの都会っ子が登山にめざめたきっかけは、医師である両親、ことに山好きだった父親が、四人の子どもたちを丈夫に育てたいと、幼少時から箱根や信州の別荘へと連れ歩いたことにあった。夏は山、冬はスキーとアウトドアライフに深く親しんだ彼女は、いつしか、森や湖や川に触れる生活が都会暮らしより肌に合うと思うようになったという。

医師をめざして東京女子医科大学に入学した時、迷わず山岳部に入部したのも、体にしみついた山好き精神のせいだった。この頃から本格的な山登りを始めた彼女は、昭和三九年、女性パーティとしては初めて谷川岳の一の倉沢烏帽子沢奥壁の登攀に成功、女性登山家としてその名を知られるようになった。

彼女のチャレンジ精神、探求心は、次第に海外の有名な山に向けられるようになり、次にめざしたのはスイス・アルプスのマッターホルン北壁だった。この山の一般ルートは、五合目あたりまでケーブルが動いていて、普通の人でも一日がかりで山頂にたどりつける。が、北壁となると年中氷で閉ざされた断崖絶壁。四二年、その壁を仲間の若山美子と登り成功、女性ペアによる初快挙をなしとげた。しかしマッターホルンでも彼女は「期待したものは得られなかった」と言う。この直後彼女はアイガーのだだっ広い岩壁に魅いられ、四四年、加藤滝男らと組んだパーティで北壁を制覇、次いでこの年のグランド・ジョラス北壁登頂を成功させたのだが、登攀後、ひとつ年下の登山家・高橋和之と、四二〇八㍍の山頂で結婚式を挙げ話題を呼んだ。

昭和六〇年には中国側からエベレスト（チョモランマ）に登り、冬季世界最高到達点を記録。最近では母校の東京女子医大付属病院泌尿器科で医師として勤務するかたわらパラグライダーの普及につとめたり、環境保護運動などに参加、幅広く活躍している。

▲7月27日、帰国した羽田空港で祝福の花束を受ける。左が夫の高橋和之。

勝者・敗者

素朴な男の〝魂の叫び〟輪島功一、「カエル跳び」で日本最重量級の世界王者に

阿部珠樹

輪島功一（二八）は小さい頃、うどん玉に砂糖をぶっかけたものが最高のご馳走だった。一家は樺太（サハリン）からの引揚げ者で、家族全員が汗みどろになって働いても貧しかった。高校を中退して上京し、昭和四三年に二五歳でプロデビュー。異例の遅さだったが、翌年にはたちまちジュニアミドル級の日本王者となる。

貧しい育ちに大きな体、ハングリー精神のかたまりだった。

日本タイトル獲得から二年後、この年四六年の一〇月、輪島に大きなチャンスが訪れる。世界タイトルへの挑戦である。相手はイタリアのカルメロ・ボッシ。ローマ五輪のライトミドル級で銀メダルをとり、この時までにすでに四三勝していたテクニシャンである。下馬評は圧倒的に不利。ジュニアミドル級という重い階級で、日本人がタイトルをとるのは絶対に無理、という声が支配的だった。

だが、輪島は奇策でこの壁を乗り越える。相手の目の前で急に体を沈め、そこから伸び上がるようにしてパンチを繰り出し、体を預ける。「カエル跳びだ！」。観客席からは、そんな驚きの声があがった。

チャンピオンは、この戦法にすっかり幻惑されてしまった。真正面で向き合って打ち合えば、負ける相手ではない。だが、打ち合おうと踏みこむと輪島の顔は急に沈んで目の前から消える。とまどっている時、下からパンチが飛んでくる。ボッシはまるでデビューしたばかりの闘牛士のように、頼りなげにリングをさまよった。

輪島のパンチも、変則的な姿勢から放たれるせいで、けっして強烈なダメージを与えたわけではない。しかし、相手を翻弄するような試合運びと、攻勢の印象が採点を決めた。一対一のきわどい差ではあったが、輪島は、日本最重量級の世界タイトルを獲得した。

判定が出ると、輪島は雄牛のような「ウォー」という低い叫び声を発して喜びを表現した。その響きは、樺太から北海道に渡り、クマザサや大木の根と格闘しながら大きくなった素朴な男の、魂の叫びだった。

◀タイトルを6度防衛後、2度敗れるがいずれも奪還。「炎の男」と呼ばれた。 日刊スポーツ

1月

◀**三島由紀夫葬儀(1月24日)** 川端康成を葬儀委員長に築地本願寺で行われ、文壇・演劇界はじめ約8200人が参列した。前年11月東京の自衛隊市ヶ谷駐屯地に侵入、割腹自殺して2ヵ月後の本葬だった。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲**ラルフ・ネーダー来日(1月12日)** 米GM社の欠陥車追及、公害追放運動の闘士として知られる弁護士(36)。羽田空港の記者会見で「日本は米企業の誤りを繰り返している」と述べた。

▼**沖縄で米軍の毒ガス第1次移送(1月13日)** 美里村の知花弾薬庫にあった150トンをジョンストン島に運んだ。沿道の住民は避難し、学校は休校。弾薬庫にはまだその85倍量があった。

読売新聞社

▼**アスワン・ハイ・ダム完成(1月15日)** アラブ連合共和国(現エジプト)が故ナセル大統領の遺志を継いで宿願を達成。年間最大発電量100億キロワット時。写真は完工式のサダト大統領(左)、ソ連・ポドゴルヌイ議長。

CORBIS-BETTMANN/PPS

共同通信社

▲**ミニスカ婦人警官(1月28日)** 警視庁が4年ぶりに新制服を発表。写真左から外套、冬・夏・盛夏用。いずれもスカート丈は膝上3センチ、このほか白いマフラーとブーツが採用された。

▼**葉山御用邸全焼(1月27日)** 天皇・皇后の宿泊所になる神奈川県葉山町一色海岸の本邸から出火、約3800平方メートルを焼き尽くした。20歳の侵入者による放火で、犯人は自首。

朝日新聞社

昭和46年 1月

1(金) ●ウイスキーなどの輸入が自由化される。
2(土) ●千葉市民会議、公害防止条例制定の請求。
3(日) ●箱根駅伝で往路四位の日体大が逆転で三連覇。
4(月) ●富士通の米国販売会社、FACOM230・25を日本製電算機で初めて米企業から受注。
5(火) ●荒天の山陰各港で八〇〇隻が転覆や破損被害。
6(水) ●松下電器、米GE社に初技術輸出契約と発表。
7(木) ●産業廃棄物が年三六〇〇万トンと東京都発表。
8(金) ●松戸市、高速回転式の不燃ごみ粉砕機を導入。
9(土) ●熊本地裁、水俣病裁判で初の現地検証実施。
10(日) ●利根川で悪臭の原因、劇物フェノールを検出。
11(月) ●通産省、カラーテレビの一五%値下げをメーカーに指示(2月1日までに大手七社値下げ)。
●専売公社の調査で男性喫煙率が初めて減少。
12(火) ●反公害運動家の弁護士ラルフ・ネーダー来日。
13(水) ●沖縄で米軍の毒ガスの第一次移送作業。
14(木) ●東京地裁、北富士演習場への入会権を認めるが闘争小屋は却下と忍草入会組合に通告。
15(金) ●エジプトのアスワン・ハイ・ダムが完工式。
16(土) ●在日朝鮮人の協定永住権申請締め切り。六〇万人中三五万人が申請。
17(日) ●ニューヨークとの国際ダイヤル即時通話開始。
●ニッポン放送で五〇時間の「糸居五郎のマラソンジョッキー」放送。
18(月) ●大相撲で琉王が、一六年ぶりの禁じ手で黒星。
19(火) ●三洋、世界最小の携帯用電卓を発売と発表。
20(水) ●鹿島石油化学コンビナート、完工式。
21(木) ●自民党総裁任期を三年に延長し立候補制採用。
22(金) ●スト破りにガードマンを雇った那珂湊市長へのリコール運動開始(6月20日成立)。
23(土) ●テレビ「8時だヨ!全員集合」が視聴率五〇%。
24(日) ●東京の築地本願寺で三島由紀夫の葬儀挙行。
●ザ・タイガース、武道館で解散コンサート。
25(月) ●草月流家元・勅使河原蒼風を脱税で起訴。
●ウガンダでクーデター。アミンが実権握る。
26(火) ●ソ連、「金星7号」が金星軟着陸に成功と発表。
27(水) ●葉山御用邸の本邸約三八〇〇平方メートルが全焼。
28(木) ●独身勤労者調査でレジャー一位は男性がパチンコ、女性はボウリングと経企庁発表。
29(金) ●社会党、四日市港に硫酸たれ流す石原産業が工場増設で名古屋通産局と談合と暴露。
30(土) ●厚生省、大牟田市をカドミウム汚染の要観察地域に指定。
31(日) ●未登録犬一二万頭で都が取締り強化と新聞に。

ニュース・ファイル 1971

フォト+日録で再現する365日

ドーナツ、フライドチキンに次いで、マクドナルド一号店が日本に上陸する。一方、公害という名の、企業による自然や人体への汚染をチェックすべく環境庁は発足するが、三里塚での農地の強制収用や、雫石の自衛隊機事故は、生命や財産の軽さを痛感させた。

◀**超高層時代幕開け(6月5日)** 東京の副都心、新宿に日本一のっぽビル、京王プラザホテルがオープン。地上170メートル、47階。以降続々と建設される超高層ビルの先陣を切った。写真は勢ぞろいした社員200人。

朝日新聞社

▼日中国交回復めざし藤山愛一郎ら中国へ出発(2月11日) 自民党議員代表の藤山(写真左端)と日中覚書貿易交渉代表団団長・岡崎嘉平太(中央)ら。周恩来首相との北京会談で、中国が唯一の政府であることの確認を迫られた。

共同通信社　時事通信社

◀英ロールス・ロイス社倒産(2月4日) ロッキード社の旅客機用エンジンの開発に失敗、政府の緊急融資もおよばなかった。連鎖倒産を防ぐため、航空機エンジン部門などは国営化。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲ロサンゼルスで大地震(2月9日) 高速道路が崩壊、ダムにひび割れが起き、死者63人、負傷者1000人以上となった。写真は倒壊して死者44人を出した震源地近くの在郷軍人病院。

朝日新聞社

▼サリドマイド裁判始まる(2月18日) 睡眠薬服用でアザラシ肢症などの障害児を持った63家族が、国と大日本製薬の責任を追及。写真は前日、東京・三田会館での原告団。

朝日新聞社

◀京浜安保共闘、銃強奪(2月17日) 横浜国大生ら3人が栃木県真岡市の銃砲店(写真)に侵入。同日二人が逮捕され、後にアジトから銃や多数の散弾などが見つかった。「革命」のための武器調達が目的だった。

昭和46年 2月

1(月) ●岡山大教授・小林純、東邦亜鉛安中製錬所の女子従業員の遺体から超高濃度カドミウム検出と発表。
2(火) ●四五年の自動車輸出が一〇〇万台突破と発表。
3(水) ●日本リーダース・ダイジェスト、購読者リスト横流しで告訴される。
4(木) ●東京地裁、第一次羽田闘争の二六被告に有罪。
●英ロールス・ロイス社が倒産。
5(金) ●「アポロ14号」の着陸船「アンタレス」月面に。
6(土) ●大阪でクッキングサービス会社による夕食献立の電話サービスが主婦に人気と新聞に。
7(日) ●札幌冬季プレオリンピックが開幕。
8(月) ●立川涼愛媛大助教授ら、PCBが鳥や魚の体内に蓄積されていると発表。
9(火) ●南極観測船「ふじ」、氷海から一ヵ月ぶり脱出。
10(水) ●全沖縄軍労、解雇反対の四八時間ストに突入。
11(木) ●藤山愛一郎ら自民・経済界訪中団が出発。
12(金) ●政府、農地改革の買収農地を買収価格で返還と発表(反対強く、5月時価の七割と変更)。
13(土) ●全国地域婦人団体連絡協、化粧品・薬品会社など一六社の再販商品不買運動を申し合わせ。
14(日) ●OPECと国際石油資本が原油価格値上げ協定に調印。一バレル＝二ドル一五セント。
15(月) ●英、通貨の十二進法を十進法に変更。
16(火) ●日中国交回復国民会議結成。議長・中島健蔵。
17(水) ●京浜安保共闘、真岡市の銃砲店から散弾銃一〇丁など強奪(27日アジト捜索で押収)。
●ワイン需要急増で濃縮果汁の緊急輸入決定。
18(木) ●小松製作所、水陸両用ブルドーザーを開発し建設省に納入と発表。
19(金) ●津地検、石原産業を海水汚染では初めて起訴。
20(土) ●東久留米市滝山団地の主婦、「プレイガール」の不倫シーンロケに関しテレビ局に抗議。
21(日) ●京都市長選(社共推薦の船橋求己が初当選)。
22(月) ●新東京国際空港予定地で第一次代執行。
23(火) ●日本の造船進水量は全世界の半分と英ロイド。
●在日米軍、北富士演習場で実弾射撃演習。反対を押し切り一一年ぶりに長距離砲を使った。
24(水) ●東京の生活費は月八万一〇〇〇円と総理府。
25(木) ●土居健郎『「甘え」の構造』刊行。
26(金) ●赤軍派の重信房子がベイルートへ出国と判明。
27(土) ●文部省、小・中学校指導要録改定。通信簿の1はつけなくてもよいと明記。
28(日) ●岐阜県柳津町に初の民間「岐阜天文台」完成。

共同通信社

▲鮮やかな「ピンポン外交」(3月28日) 名古屋市で開かれた世界卓球選手権大会に中国卓球代表団が参加(写真)。最終日の4月7日、代表団の宗中秘書長が米国選手団を中国に招待すると発表、世界を驚かせた。

▼戦艦「陸奥」引揚げ(3月15日) 昭和18年に山口県和田沖で謎の爆沈、前年7月から作業を開始していた。砲塔や多数の遺骨・遺品が発見された前年に続き、28年ぶりに艦尾が姿を現した。

共同通信社

WWP

◀ソンミ村虐殺事件のカリー中尉(右)、判決(3月31日) カリーの小隊は1968年3月、南ベトナムで索敵撃滅作戦の名のもとに女性・子どもを含む一般人500人以上を虐殺し、終身重労働刑を宣告された。しかし、翌日ニクソン大統領が釈放を指示、世論も賛成した。

◀第一勧銀誕生へ(3月11日) 預金高6位の第一銀行と預金高8位の日本勧業銀行が対等合併を発表。都市銀行では戦後初のケースで、預金高日本一に躍り出た。営業開始は10月。貿易・資本の自由化をバックに産業界の大型化・寡占化が進行、金融界再編は不可欠とみられていた。

毎日新聞社

▼新幹線で修学旅行(3月16日) 国鉄が全日本中学校長会などの要望を入れて、この日から修学旅行での中学生5割引、高校生2割引の団体学割を実施した。写真は「こだま」に乗って出発する埼玉県の中学生たち。

共同通信社

▼「総理は財界の男めかけ」(3月29日) 二院クラブの青島幸男(写真)が参院予算委員会で政治資金規制問題を追及中、佐藤首相に対して発言。自民党からは懲罰動議が出たが、国民の喝采をあびた。

共同通信社

昭和46年 3月

1(月) ●五木ひろし「よこはま・たそがれ」発売。
●東京で初の家賃三万円台の公団住宅募集開始。
2(火) ●専売事業審、タバコ「有害」表示見送りを決定。
3(水) ●海上自衛隊が房総沖で初の日米合同演習。
4(木) ●米、日本製テレビにダンピング税を賦課。
5(金) ●大阪刑務所で印刷された大阪大と大阪市大の入試問題を盗み密売した元受刑者二人逮捕。
6(土) ●アサヒ玩具、「アメリカンクラッカー」発売。
7(日) ●国鉄、線名を統一。山手線は「やまのて」線。
8(月) ●ボクシングのモハメド・アリが復帰第一戦。ジョー・フレージャーに判定負け。
●日本繊維産業連盟、対米輸出自主規制を宣言。
9(火) ●赤軍派、相模原市で銀行襲い一五〇万円強奪(資金調達のM作戦の一環)。
10(水) ●今東光、天台宗大僧正に就任。
11(木) ●マスコミ対処法をまとめた通産省「広報雑記帖」、国会で言論統制の恐れありとされ廃刊に。
12(金) ●公取委、石油団体などを価格協定容疑で検査。
13(土) ●埼玉県志木市議会、全国で初めて六八歳以上の医療費完全無料化の条例案を可決。
14(日) ●森永、砒素ミルク被害者への恒久的救済表明。
15(月) ●千葉地裁、千葉大付属病院の採血ミス死亡事件(44年)で国に一億二百余万円の賠償を命ず。
16(火) ●国鉄、新幹線での修学旅行団体学割を実施。
17(水) ●怪獣ブーム、子ども向け商品続々と新聞に。
18(木) ●政府、土佐湾沿岸で米原潜の演習を認める。
19(金) ●この日づけの「朝日ジャーナル」赤瀬川原平の「赤くなければ朝日ではない」が問題化。
20(土) ●米映画「ある愛の詩」封切。
21(日) ●名古屋の演劇場宝生座(明治16年創立)が閉館し、サウナ風呂に転業と新聞に。
22(月) ●警視庁、スピード違反摘発レーダー装置公開。
23(火) ●倒産した建設会社の被害者三五世帯が自力で横浜に建設するマンションの起工式を行う。
24(水) ●外資審議会、自動車関連の資本自由化を答申。
25(木) ●入試問題密売事件で大阪市大は不正入学者六人の「自主退学」を決定。
26(金) ●東京の多摩ニュータウンで第一次入居開始。
27(土) ●川崎市で赤軍派M作戦の拠点発見。三人逮捕。
28(日) ●名古屋で世界卓球選手権大会開幕。
29(月) ●青島幸男、首相は「財界の男めかけ」と批判。
30(火) ●東郷青児、東京の自宅から絵画四点盗まれる。
31(水) ●最高裁、宮本康昭ら青年法律家協会所属の裁判官の再・新任を拒否。

◀天皇・皇后、原爆慰霊碑に初めて参拝（4月16日）戦争責任を問う抗議デモが禁止される中、戦後27年目にして初めて広島の平和記念公園を訪問。犠牲者の冥福を祈った後、お二人は原爆養護ホームで被爆者の老人たちを見舞った。

朝日新聞社

▲日本、デ杯東洋ゾーンで半世紀ぶりに豪州を破る（4月26日）東京の田園コロシアムでのシングルスで坂井利郎が果敢なテニスでクーパーを破り、3対2で日本の勝利を決めた。

朝日新聞社

▲バングラデシュ独立（4月17日）東パキスタン政府軍を破ったアワミ連盟を主体とする解放勢力が、人民共和国の独立を宣言。写真はラーマンの代行、イスラム副大統領。

WWP

▲新宿駅東口にスクランブル交差点（4月20日）自動車用信号が赤の時は、歩行者が前・横・斜めどちらにも渡れるようにした。昭和43年12月に熊本市小飼橋で実施されたのが日本初。

共同通信社

▲積水化学、人工芝を発表（4月10日）耐久性に富み柔らかいナイロンやポリプロピレンを植毛したり、編み立てて芝に似せた人工芝は、スポーツ用やベランダ用として普及した。

共同通信社

▼ベトナム反戦大集会（4月24日）ホワイトハウスから国会議事堂前広場（写真）まで全米各地から集まった20万の人波が埋め、キング牧師未亡人らが「撤退を」と訴えた。

WWP

昭和46年4月

1（木）●地価公示で新宿駅前が坪二三八万円で銀座を抜き全国一。宅地は二〇%上昇。
2（金）●箕面市にミスタードーナツの一号店開店。
3（土）●「仮面ライダー」放映開始。初代ライダーは藤岡弘。主人公の変身ベルトが玩具にもなる。
4（日）●医療告発する「反日本医学会総会」開催。
5（月）●上野動物園がゴリラ舎にノイローゼ解消のためのテレビを設置。
6（火）●JETRO刊『米国人の対日観』が米ビジネスマンの間でベストセラーと新聞に。
7（水）●中国卓球代表団、米を正式招待（10日、米チーム、北京に到着。ピンポン外交始まる）。
8（木）●日本原子力産業会議、二〇〇〇年までに原子力船を二八〇隻建造と予測。
9（金）●大蔵省、前年の経常黒字は西側トップと発表。
10（土）●沖縄米軍の軍曹、第七心理作戦部隊が行うデマ情報流布などの非人道的作戦を告発。
11（日）●第七回統一地方選（都知事に美濃部亮吉が再選、大阪府知事に社共の黒田了一当選）。
12（月）●明治神宮で二万年前のナウマンゾウの骨発掘。
13（火）●法学者六〇四人、青法協問題で最高裁批判。
14（水）●週休二日制広がり大企業で三分の一と新聞に。
15（木）●北海道開拓記念館（館長・犬飼哲夫）、開館。
16（金）●天皇・皇后、広島原爆慰霊碑に初めて参拝。
17（土）●カニ漁規制など日ソ漁業交渉に全国抗議大会。
18（日）●滋賀県木之本町長選の立候補予定者二人が神社で籤引きし一人辞退、無投票に。
19（月）●警視庁、「平凡パンチ」に非行助長と厳重警告。
20（火）●韓国、在日韓国人の徐勝・徐俊植ら五一人を北朝鮮のスパイとして検挙（学園スパイ事件）。
21（水）●田子の浦港のヘドロ投棄作業開始。
22（木）●新たに一三人を水俣病と認定し計一三四人に。
23（金）●最高裁、無人踏切事故に電鉄側の責任を認定。
24（土）●ワシントンで二〇万人がベトナム反戦集会。
25（日）●「ニューヨーク・タイムズ」紙、日本への核持ちこみを許す日米秘密協定を暴露。
●小柳ルミ子「わたしの城下町」発売。
26（月）●テニスのデ杯で日本が五〇年ぶり豪を破る。
27（火）●京都の東寺が国宝など四一件の売却を認める。
●防衛庁、四次防原案発表（三次の約二・二倍）。
28（水）●韓国大統領選で朴正熙が金大中破り三選。
29（木）●三菱化成黒崎工場が癌の集団発生を一三年間隠匿と判明。
30（金）●自治省、二七四市町村を過疎地域に追加指定。

朝日新聞社

▲ベ平連、反戦一株運動（5月28日）東京の日比谷公会堂で行われた三菱重工株主総会に、どくろの仮面姿で約200人が参加。軍需産業反対を訴えたが、右翼が妨害、発言を封じられ、総会は32分間で終わった。

証言・あの日この日

赤瀬川原平（33）

3月17日(水)〈先週出た「櫻画報」三一号を最後に、八ヶ月間乗取っていた「朝日ジャーナル」をやっと乗捨てたわけでホット一息。企業合理化などできぬ相談の本紙としては、週刊はやはり疲れる。今後は定期増刊があるとはいえ、月刊体勢に切り替えたのでヤレヤレ。ひと息いれてこちらもハナクソでもほじろうと、右手ヒトサシ指を鼻の穴に挿入したトタンに「ヂリリリーン」と電話〉（赤瀬川原平『櫻画報大全』）

電話の主はサンケイ新聞の記者。まさにその「朝日ジャーナル」3月19日号が、発売5日目（3月15日）、朝日新聞社の常務会決定で突如回収されたというのだ。回収理由は、赤瀬川原平が、尊敬する先人・宮武外骨同様、軽い冗談で漫画に書き添えた言葉、「アカイ／アカイ／アサヒ／アサヒ」が問題視されたと噂された。（坪内祐三）

▼はやる酒の自販機酒場（5月）写真は東京・赤坂見附の地下鉄駅近くにできた「梅光」。酒瓶を逆さまにセット、100円で一定量だけ出た。サラリーマンに人気で新橋駅前にもあった。

▶「連続強姦殺人魔」大久保清逮捕（5月14日）群馬県高崎市などを車で移動、ルパシカにベレー帽という画家に扮した姿で若い女性に接近、1ヵ月あまりの間に8人を殺害していた。

読売新聞社

共同通信社

読売新聞社

▲石坂浩二（29）・浅丘ルリ子（30）結婚（5月14日）共演したテレビドラマが縁となり、この日東京・赤坂の霊南坂教会で結婚。芸能界の大きな話題となった。

◀大鵬引退（5月14日）前日の大相撲夏場所5日目小結貴ノ花戦に敗れ（写真）決意。子どもの好きな「巨人、大鵬、卵焼き」と言われ、一時代を築いた。体力の限界を理由にしたが、まだ30歳だった。優勝32回。

読売新聞社

昭和46年5月

1（土）●日ソ漁業交渉、抱卵ニシン全面禁漁で妥結。
2（日）●思春期が半世紀で二年早まった、と新聞に。
3（月）●米「タイム」誌が「日本企業の侵略克服」を特集。
4（火）●「日経流通新聞」創刊。
5（水）●連休中の交通事故死が三五四人と過去最悪。
6（木）●三井物産、初の女性海外派遣員一二人を発表。
7（金）●日本配合飼料会社、公害などで入手困難な昆虫を全国の小学校に販売すると発表。
8（土）●日弁連、青法協再任拒否の撤回要求を決議。
9（日）●EC、ドル流入続く西独に変動相場制承認。
10（月）●地婦連、会員販売だった一〇〇円化粧品「ちふれ」の一般販売を開始。
11（火）●厚生省、住宅地貫通が多い建設省の道路建設計画には騒音公害対策不在と指摘。
12（水）●米クライスラー社が三菱自工に資本参加契約。
13（木）●エジプトで反サダト派の親ソ政治家一斉検挙。
14（金）●女性八人を誘拐・殺害した大久保清を逮捕。
●名古屋高裁、地鎮祭への公費支出に違憲判決。
●横綱大鵬、引退。
15（土）●航空二社の合併で東亜国内航空発足。
●第一回神戸まつり開催。
16（日）●コザ市で米兵と住民が反戦交流集会を開催。
17（月）●東京に雑誌の図書館「大宅（壮一）文庫」開館。
18（火）●忍草母の会、米兵に反戦訴える放送局開設。
19（水）●沖縄で七万余人が返還協定抗議ゼネスト決行。
20（木）●一八日以来の国労・動労のストが空前の規模に突入（私鉄もこの月三波のスト決行）。
21（金）●住宅公団、騒音ひどい上尾市の団地四六〇世帯に移転を斡旋と発表。
22（土）●群馬県警、大久保清事件に関連し、行方不明女性七人の公開捜査開始。
23（日）●英で人気のソニー製カラーテレビに対抗し、英大手メーカーが値下げを発表。
24（月）●通産省外郭団体が、沖電気など八社に漢字変換・給与計算など六種のプログラム開発委託。
25（火）●女性誌「non・no」（集英社）創刊。
26（水）●チッソ株主総会で水俣病患者ら一株株主の発言封じ、会社側警備員らが暴行。
27（木）●グルタミン酸ソーダに米で有害説と新聞に。
28（金）●全国スモンの会、初の損害賠償訴訟を提起。
●日本医師会、全国に保険医総辞退戦術を指令。
29（土）●長崎精神科病院で看護人が看護長ら三人撲殺。
30（日）●東京国税局、学校などの隠し所得五億円摘発。
31（月）●「毎日新聞」連載の横山隆一「フクちゃん」終了。

▲深夜放送のアイドル落合恵子（6月15日）前年から文化放送で「セイ！ ヤング」のDJを担当。受験生らに直接語りかけるような調子が受け「レモンちゃん」の愛称で人気者に。

▲制服にホットパンツ（6月1日）衣がえのこの日、東京・銀座の三越百貨店がエレベーターやエスカレーター係、店内案内係などに思い切って採用した。濃紺色で丈は25センチ。上衣の袖口や襟もとに白い縁取りをほどこした。

◀イタイイタイ病勝訴（6月30日）富山地裁がカドミウムが主因と認定、三井金属鉱業に原告31人への慰謝料支払いを命令。昭和47年、控訴棄却で判決が確定した。写真は勝訴を喜ぶ支援団体。

◀九州縦貫自動車道開通（6月30日）北九州市門司区から福岡、佐賀、熊本、宮崎を経て鹿児島県田上町にいたる総延長約430キロのうち、まず熊本市長嶺町―熊本県植木町間13.9キロが完成。植木インターチェンジで開通式が行われた。

▶「ソユーズ11号」死の帰還（6月30日）24日間の宇宙旅行と軌道ステーションとのドッキングに成功したが、地球に戻った3飛行士は座ったまま絶命していた。写真はモスクワ・赤の広場での国葬。

◀市川房枝、参院選に落選（6月27日）東京地方区から立候補したが、田英夫、安西愛子、望月優子、立川談志などタレント議員全盛のかげで落選。しかし3年後に全国区で復活。

昭和46年6月

1（火）●勤労者財形促進法公布。財形貯蓄制度を新設。
2（水）●小・中学生の授業理解は半数以下と判明。
3（木）●東北に三〇年ぶりの冷害、果樹壊滅と新聞に。
4（金）●沖縄の米資産移転費四億ドルを日本負担で合意。
5（土）●東京・新宿に超高層の京王プラザホテル開業。
●国税庁、ネズミ講の第一相互経済研究所（会長・内村健一）を脱税容疑で強制調査。
●アサヒビール、初のアルミ缶ビールを発売。
6（日）●全国腎臓病患者連絡協議会結成。人工透析の国庫負担などを要求。
7（月）●NHK生活時間調査で就寝時刻が午前零時すぎは一〇年前の三倍、六六〇万人と新聞に。
8（火）●厚生省、独居老人は五四万人と発表。
9（水）●長崎の浦上天主堂鐘楼ドーム保存工事が完成。
10（木）●電卓のバーゲンセールが東京のデパートであり、四万円を切る電卓が初登場、と新聞に。
11（金）●中央教育審議会、六・三・三に代わる四・四・六制導入など「第三の教育改革」を提案。
12（土）●共産党、米軍敷設の沖縄―台湾間海底電線の即時撤去を政府に要求。
13（日）●「ニューヨーク・タイムズ」紙、国防総省のベトナム戦争秘密報告書を入手し連載開始。
14（月）●政府、大気汚染防止法施行令の一部改正を決定。煤煙規制、知事の緊急時の権限付与など。
15（火）●静岡県清水港周辺で数十万匹の魚が大量死。
16（水）●学校不足の横浜市、生徒数抑制のため団地建設申請却下の方針を決定。
17（木）●沖縄返還協定調印。
●三越パリ店、開店。
18（金）●椋鳩十に第一回赤い鳥文学賞。
19（土）●外国航空会社の日本人従業員二五〇〇人、住宅保障のない成田空港への移転に反対表明。
20（日）●両津市の山道で国際保護鳥・朱鷺の死体発見。
21（月）●首都圏整備委、米軍立川基地の活用構想発表。
22（火）●二三歳の石田芳夫、史上最年少の本因坊位に。
23（水）●主婦連、乳飲料のポリ容器反対集会を開催。
24（木）●東京中野区議会、区長候補の準公選制を可決。
25（金）●都知事、後楽園競輪廃止の話し合い開始通告。
26（土）●英映画「小さな恋のメロディ」封切。
27（日）●第九回参院選（全国区一位は田英夫）。
28（月）●首都圏全域に光化学スモッグ発生。
29（火）●沖縄復帰後の自衛隊配備計画を日米了承。
30（水）●富山イタイイタイ病訴訟で患者側全面勝訴。
●グレープフルーツなどの輸入自由化実施。

「現場」を歩く 多摩
“団塊世代”のニュータウンに欠けていた高齢者対策の発想

山本徹美

▲昭和46年3月26日、ニュータウンの第1次入居開始。この日の入居は208戸、630人。
◀現在の公団・永山団地。多摩ニュータウンの中でも最も古い開発地区で、「ヨウカン型」と呼ばれる住宅が立ち並んでいる。

東京・新宿から京王線の電車を利用して約四〇分、永山駅に到着。ここは多摩ニュータウンのほぼ中央にあたる。

昭和四六年三月二六日、日本住宅公団（現＝住宅・都市整備公団）と東京都住宅供給公社がここ永山地区などに建設した住宅への第一次入居が始まった。

東京における住宅難は、米軍の焼夷弾によって焦土と化した終戦直後に端を発する。東京都の調べでは昭和二〇年の段階で約四〇〇万戸が不足。さらに昭和三〇年には人口が八〇〇万を超えたためさらに深刻化した。都はこれを解消すべく新住宅市街地開発法を制定（昭和三八年）、南多摩総合都市計画策定委員会を結成し、昭和三九年同委員会は「多摩新都市建設に関する基本方針」を発表。

同基本方針では対象となる区域約七〇〇〇ヘクタールのうち約三〇〇〇ヘクタールを第一期事業区域とし、ここに人口三〇万、六万六四三〇戸を想定した新都市創成のマスタープランを打ち出したのである。計画はその後修正され、平成二年には区域九〇〇〇ヘクタール、目標人口五八万人へと拡大された。平成八年現在、一七万七七九一人、六万三九〇〇世帯が居住している。

行政主導のもとに形成された「新都市」だったが、すぐに不備が露呈した。鉄道がなく、出勤時のバス便は大混雑。小田急線と京王線が延伸開通したのはなんと三年後の昭和四九年だった。総合病院もなく、昭和五二年にようやく日本医科大附属病院が開設。さらに、小学校も不足。住都公団南多摩開発局員が解説する。

「住民の大部分を占めたのがいわゆる団塊の世代。彼らの子どもが就学時を迎える時期と重なっていたのが原因でした」

ベビーブームも戦争の「落とし子」にちがいない。すべては太平洋戦争に起因し、それが後生にも重くのしかかる。

終の棲家とはならず

ここの住民で多摩市自治連合会会長をつとめる大矢宗人氏（六二）が指摘する。

「都・公団には高齢者対策の発想が欠けていた。そのため、階段に手すりを設置してなかったり、エレベーターを使うにも階段を利用しなくてはならなかったり、部屋には段差がある、など高齢者にとっては障碍が多い構造なのです」

この地域の地形自体が中高年にはきついい。私は歩いてみてひどく疲れた。舗装はしてあるが、起伏が激しいためだ。

平成七年、ニュータウン居住者を対象に公団が調査した結果、「ずっと住み続けたい」と答えたのは四五・八パーセントだった。これは、全体に占める分譲住宅の割合とほぼ一致する。賃貸住宅居住者はさておき、高齢者や分譲住宅居住者は気軽に転居はできまい。大矢氏が述懐する。

「住み良い環境は行政など第三者が与えるものではない。自分たちの努力で築き上げるものなのだと実感しています」

机上の発想には限界があるようだ。

▲首都圏のおもなニュータウン。住都公団のほかに、自治体や民間企業が事業体に参画しているものも多い。

ベストセラー
著者のI・ベンダサンとは誰だ？『日本人とユダヤ人』の読まれ方

イザヤ・ベンダサンというユダヤ人を著者とする『日本人とユダヤ人』が、前年に発行され、この年までに七〇万部というベストセラーになった。版元の山本書店は聖書やヘブライ関係の専門書を出版する小出版社で、まったく口コミで売れた本格的ベストセラーだった。

日本人とユダヤ人を比較する形をとりながら、高度経済成長を続け国際社会に乗り出しつつあった日本に、鋭い批判と警告を与えた。〝日本人は、安全と水は無料で手に入ると思いこんでいる〟とか、歴史的な被迫害民族の迫害されるにいたる道筋を追いながら、国際社会で日本はまさにそのようなポジションにあるとか、話は具体的で説得力があった。

なお、こうした批判や警告が的確だったうえ、引用文献が、日本の比較的マイナーな古典的文献だったりしたため、著者は実は日本人ではないかという噂が広まった。結局のところ、どうやら発行人の山本七平氏その人らしいという推測に落ち着き、今日にいたっている。

また、NHK大河ドラマの原作として書き下ろされ、ドラマの進行とともに発売された、山岡荘八の『春の坂道』もベストセラーとなった。徳川家康から家光までの将軍とともに生きた剣の達人・柳生宗矩の生涯を描いたもの。歴史の〝主役〟ではなく〝脇役〟の視点から描いた歴史ドラマだったが、これもまた日本人の姿を浮き彫りにする読み物だった。

一方「性について日本人一般が抱いているさまざまな誤解や間違いをやっつけ、叩きつぶすため」（著者）に刊行された『HOW TO SEX』もよく売れた。エロチックなヌード写真と、著者・奈良林祥の医学的な説明をミックスした絶妙の編集で、読者を刺激した。

●昭和46年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『人間革命(6)』(池田大作／聖教新聞社)
2位	『冠婚葬祭入門』(塩月弥栄子／光文社)
3位	『日本人とユダヤ人』(I・ベンダサン／山本書店)
4位	『冠婚葬祭入門(続)』(塩月弥栄子／光文社)
5位	『春の坂道』(全3巻／山岡荘八／日本放送出版協会)
6位	『HOW TO SEX』(奈良林祥／KKベストセラーズ)
7位	『誰のために愛するか』(曽野綾子／青春出版社)
8位	『ラブ・ストーリィ』(E・シーガル／角川書店)
9位	『冠婚葬祭入門(続々)』(塩月弥栄子／光文社)
10位	『戦争を知らない子供たち』(北山修／ブロンズ社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『日本人とユダヤ人』(640円)

▲『春の坂道』(各430円)

▲『HOW TO SEX』(600円)

スターと名場面
〝ロマンポルノ〟前夜の日活映画「八月の濡れた砂」と挫折感

この年の映画界は、大映が倒産、日活が経営不振を打開しようと新路線〝ロマンポルノ〟を打ち出すなど大きく揺れた。人気女優・藤純子が引退を表明したのも象徴的な出来事だった。

そんな中、松竹の森崎東監督は「喜劇・女は男のふるさとヨ」で諷刺のきいたコメディーを撮った。森繁久弥や中村メイコら芸達者の面々が大いに笑わせ、ストリッパー役の倍賞美津子はパワフルな女性を演じて、新境地を開いて見せた。

また日活がロマンポルノ路線を打ち出す前に公開された「八月の濡れた砂」(藤田敏八監督)は、挫折感を濃厚に漂わせるリアルタイムの青春映画だった。

大島渚監督は独立プロ〝創造社〟で「儀式」を撮った。家父長制が厳然と残る地方の名家を舞台にしたドラマで、戦争の影の部分を浮かび上がらせた。

ほかにも、この年は独立プロの活躍が目立った。「沈黙 SILENCE」(篠田正浩監督)の表現社や「書を捨てよ町へ出よう」(寺山修司監督)の人力飛行機プロなどで、それぞれ話題を呼ぶ作品を作った。

洋画では、次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「ある愛の詩」(R・オニール、A・マッグロー)「エルビス・オン・ステージ」(E・プレスリー)「ベニスに死す」(ダーク・ボガード)

日活提供

▲「八月の濡れた砂」で純情な青年を演じた広瀬昌助(左)と気まぐれな少女役のテレサ野田(右)。

▲「儀式」の一族が集まったシーン。家を継ぐはずの男の子は、家長(佐藤慶、左)の前で食事する。 大島渚プロダクション提供

松竹提供

◀「女は男のふるさとヨ」で好演の倍賞美津子(中央上)と森繁久弥(中央)。

モノ語り'71
「カップヌードル」「固形のり」「オールアルミ缶ビール」超ヒット商品は〝容器革命〟から！

▶文具にも革命が起こっていた　文具の必須アイテムである〝のり〟は、一般に指で塗りつけるものだった。ところがこの年トンボ鉛筆が、国産初のスティックタイプの固形のり「ピット」の開発に成功、発売して〝のり〟のイメージを変えた。試作品だけで81種という苦心の作だった。1本100円という高価格だったが、輸入品より安かったこともあってヒットした。

▲オフィスの環境が明るくなった　軽量でスマートなインテリアブラインド「シルキー」が立川ブラインド工業から発売された。熱反射率の高いアルミ製で超薄型のスラット(羽)を、高温に強いアクリル樹脂で塗装したもの。12色あり、それぞれのオフィスにふさわしい環境作りを楽しむこともできた。発売翌年には、量産のための工場を増設したほどの売れ行きだった。

◀ボウリングのミニチュア版がヒット　折からのボウリング・ブームに乗って、そのミニチュア版ともいうべき「パーフェクトボウリング」がエポック社から発売され、ヒットした。倒れたピンのリセット装置や、ボールを投げる人形の向きを自由に変えてピンを狙うなど、大人でも十分楽しめる玩具だった。1980年代に一時市場から消えたが、最近のブーム復活で、復刻版を出した。発売当時は2650円。 日本玩具資料館蔵

▲インスタント食品のきわめつけ　食品容器に発泡スチロールを使った画期的インスタント食品「カップヌードル」が日清食品から1個100円で発売された。1995年までに100億食を突破するスーパーヒット商品の誕生である。チキンラーメンを紙コップに入れて食べている人を社長が見て、開発に乗り出した。一般向けテスト販売は当時プロ野球を行っていた東京スタジアムで。そして発売は、都内の百貨店から。銀座ではマクドナルドと人気を二分した。

▲ヒッピーのつけていたバッジ　アメリカのヒッピーが、反戦や公害防止などを訴えるために身につけていた〝ラブピースバッジ〟を、サンスター文具が導入し、「スマイルバッジ」として売り出したところ、たちまちブームに。小100円〜大150円。

◀いよいよアルミの缶ビール時代へ　スチール缶を缶切りで開けていた初期の缶ビールから、上蓋だけプルトップのアルミ製という時代を経て、この年ついに「オールアルミ缶ビール」がアサヒビールから発売された。軽くてやわらかい手触りのオールアルミ缶の登場は〝容器革命〟と言われた。「お飲みになったらにぎりつぶしてください」というキャッチフレーズも斬新なイメージを与えた。350ミリリットル入り95円。

◀口臭防止がエチケットに　容器の口をそのまま口に向けて約3秒間スプレーすればオーケーという口臭防止剤「マウスペット」が、ライオン歯磨(現・ライオン)から1個200円で発売された。クロールヘキシジンという殺菌剤が主成分で、ペパーミントの香味。高さ8センチほどという手頃な大きさで、携帯しやすいようにデザインされていた。

人物クローズアップ

中山律子(二八)

テレビCM「さわやかリッコさん」でブームを支えたボウリングの"女王"

▲テレビの収録で勢ぞろいした女子プロ"花のトリオ"。左から須田開代子、石井利枝、中山。

昭和四六年、この年日本中がボウリングブームに沸いた。テレビのボウリング番組が週に一三本、一日一軒の割合でふえ続けるボウリング場の開場ラッシュが日本列島を駆け抜けた。

この大ブームの牽引車となったのが、この年、第七回札幌オールスター、第五回全日本オープンなど六タイトルを獲得した、ボウリングの"女王"中山律子(二八)だった。中山は、同年出場した二八の公式戦で一九五のアベレージを記録し、国電の初乗り運賃が三〇円の時代に、四五〇万円あまりの賞金を右腕一本で稼ぎ出した。専門誌によるプロボウラーの人気投票でも二位以下を倍近くも引き離す断トツの人気を誇った。

この中山人気を招いたのが、前年の八月二一日に行われた公式戦での女子プロとしてのパーフェクト(三〇〇点)第一号だった。「何か言おうとしても、言葉が出てこなかった。ばんざいをした私をまるで別の自分が見ているような、宙に浮いた気分だった」と、中山はパーフェクト達成の瞬間を振り返る。約三六万分の一という気の遠くなるような達成率をみごとクリアしたのだった。

中山は群馬県草津町で昭和一七年一〇月二二日に生まれ、まもなく両親の郷里の鹿児島市に転居。高校・実業団時代は、バレーボールのアタッカーとして活躍。二〇歳の頃ボウリングに出会った。

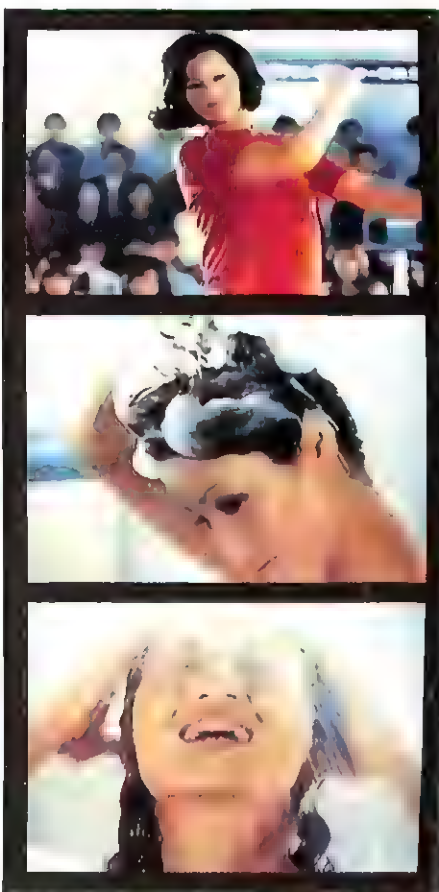
「その頃はまさか自分がプロになるとは思いもしなかった」と中山は述懐するが、そこはバレーボールで鍛えた根っからのスポーツウーマン。「遊びでも、どうせやるならもっとスコアを上げたい」と、人影が少なく、思う存分投げられる早朝ボウルに通いつめるうちに、九州大会で準優勝。「一年やって、ものにならなかったら鹿児島に帰る」という約束で武者修行に出た東京で、須田開代子・並木恵美子らとともに第一回女子プロテストに合格(昭和四四年)するという順調なスタートをきった。

一六一センチの長身のうえに美貌というそのキャラクターをかわれ、四五年には花王フェザーシャンプーのコマーシャルに登場。「さわやかリッコさん」のイメージが全国に広がると、プロボウラーとタレントとの二足のわらじをはくことに。

さらに、同年大晦日、NHK紅白歌合戦の審査員に起用されるなど、まさにシンデレラガールともいうべき活躍だった。

中山人気に支えられ、この頃のボウリング場はどこも二、三時間待ちは常識。センター数も昭和四二年の全国四九六場が四七年には三六九七場へとわずか五年で七倍以上に膨らんだ。しかしあまりの過熱ぶりへの反動からかブームの冷えこみも早く、五一年には九百場を割りこんだ。まさに、女子プロボウラーたちのチャームポイントだったミニスカートのごとき短い春だった。

中山は、四九年に結婚。一女をもうけた後もママさんボウラーとして投げ続けたが、長年の無理がたたり肘痛に襲われ、一時は引退も噂される。だが持ちまえのがんばりでみごとに第一線に復帰。

「シンプルだけど奥が深く、奥が深いわりに肩がこらずにできるボウリングは、生涯の友。ボウリングのない人生なんてとても考えられない」と言い、今も、パーフェクト二回、優勝回数三二回(歴代四位)の輝かしい記録の書き換えと後進の指導に励む現役プロボウラーだ。

▲「さわやかリッコさん」のイメージを全国に広めたテレビCF。音楽は森田公一作曲。

▲昭和45年[illegible]決定戦"第1回全日本女子プロ選手権を制した中山。2位の並木恵美子、3位の須田とのトップ争いは、つねに熾烈をきわめた。

決定的瞬間

海兵隊、レンジャーは消えた！苦く無惨なラオス"侵攻"作戦をとらえた二〇本のフィルム

▲ラオス領内25キロ地点にて。前方、B52の空爆に、北ベトナム軍陣地から猛煙が上がる。

南北ベトナム国境線に近いケサン基地から、西に延びている道路が国道9号線である。この道は、北ベトナムと南の解放勢力の拠点を結ぶホー・チ・ミン・ルートにつながっている。南ベトナム軍のラオス侵攻は、9号線からホー・チ・ミン・ルートの要衝チュポンにいたり、ルートを遮断することが目的であった。作戦に出動した南ベトナム軍は精鋭一万六〇〇〇人。米軍の空からの援護のもとに、一九七一年二月八日に作戦が開始された。一〇〇人を超す世界のジャーナリストは厳しい報道管制のもとでケサン基地に閉じこめられていた。

岡村昭彦カメラマン（四二）は侵攻二日目の二月九日、笑顔と単独行動の利点を生かして政府軍の食糧補給車に乗りこみ、ラオス領内に入った。結果から言うと領内に入って南ベトナム政府軍と行動をともにし、この作戦の〃真実〃を伝えたのは、世界で岡村がただ一人であった。

ラオス領内に入って一週間目。9号線をベトナム国境から二八キロほど進んだ地点でのことだ。

前をゆっくりと進んでいた装甲車が地雷に触れ、激しい爆発が起きた。地雷を探索するチームが安全の合図を出した後を、装甲車が進んでいく。それでも完全には地雷を避けることができない。写真はその時の一瞬である。岡村はこの時点でシャッターを八回押している。舞い上がる硝煙、風に流れる硝煙の中から一人の兵士の姿が現れる、さらに二人、三人と画面の中に兵士が登場してくる。そしてこの写真である

装甲車の中からたたき落とされた正面にいる兵士は、右手に折れた手榴弾銃を持って、地面に膝をついている。目はひきつり、焦点を結んでいない。画面左には負傷した兵士がヘルメットをかぶった兵士にしがみついている。

岡村の日記（『岡村昭彦集3』筑摩書房）によると、正面の兵士はその後、彼が近寄り、目の前で手を振っても石像のように何の反応も示さなかったという。爆発の衝撃によって、精神に異常をきたしてしまったのだ。

岡村は機甲部隊と行動をともにし、毎晩、戦車の下に穴を掘って眠り、北ベトナム軍の砲撃に耐えていた。徐々に包囲網は縮まり、ラオスに侵攻し、ホー・チ・ミン・ルートを断つというこの作戦自体が崩壊していくのを感じとっていた

一五日後、岡村は二〇本のフィルムをサイゴンに持ち帰り、「LIFE」誌に届けた。このラオス侵攻のレポートは「LIFE」に同年三月から四月にかけて、三回連載され世界に衝撃を与えた

政府軍の「すべて予定どおり」という発表とは裏腹に、作戦が完全な失敗であることを証明したからだ。一カ月経ってもチュポンに到達できず、北ベトナム軍の包囲網の中で部隊は壊滅した。米軍の救出用ヘリには南ベトナム軍の負傷兵が殺到し、将校は銃を構えて、われ先にへリに乗りこんだ。

一方、海兵隊四大隊、レンジャー四大隊の最強部隊は最後までラオス領内にとどまり、ついに連絡を絶った。苦く無惨な結末である。

▲地雷の爆風にふき飛ばされた南ベトナム軍兵士。この写真を撮った日の夜、岡村は前線取材のヘリが撃墜された話を聞く。死者の中には、友人のカメラマン・嶋元啓三郎がいた。

美の出会い

「やっぱり、マハがいい」記念タバコまで登場した超人気「ゴヤ展」の"目玉"

昭和四六年一一月一六日、東京・上野の国立西洋美術館で「ゴヤ展」がスタートした。午前一〇時に始まった開会式は、高松宮殿下をはじめ、スペインのプラド美術館長ハビエル・デ・サラス、文化庁長官・今日出海ら一八〇〇名が集う大盛会となった。また、会場前には、午後一時からの一般公開一番乗りをめざして、午前五時半から並んだ男子学生を先頭に、終日長蛇の列が見られた。

スペインが生んだ巨匠フランシスコ・ゴヤ（一七四六～一八二八）の傑作を紹介するこの展覧会は、毎日新聞社の創業百年を記念する事業のひとつとして、五年前から企画が進められてきた。当時、プラド美術館には世界各国から、ゴヤを中心に、作品の借り出しを求める問い合わせが十数件にものぼっていた。その中で特に日本で「ゴヤ展」が実現したのは、スペイン政府の日本に対する好意と、ゴヤの研究者でもあるサラス館長の熱心な協力があってのことである。油彩画三九点をはじめ、タペストリ五点、銅版画五〇点、デッサン五五点、石版画六点にのぼるゴヤ作品の数々は、プラド美術館のほかスペイン各地の美術館、博物館、教会などから集められ日本に渡ってきたのだった。これらの作品以外にも、ゴヤが使っていた椅子や机、ソファーなど一四点も含まれていた。

会場の第一室には、正面入り口のピロティ（吹き抜け部分）に設置された「黒い絵の室」があり、これはゴヤ晩年の傑作「黒い絵」一四点を制作した部屋を再現したものである。ゴヤはマドリード郊外のマンサナーレス河岸に「聾者の家」と後に呼ばれるようになる別荘を購入。ここで彼は一八一九年から二三年にかけて、部屋の壁に「黒い絵」のシリーズを描き続けた。この部屋はプラド美術館内に再現されているが、取りはずすことができないので、今回の展覧会では写真による展示となった。写真とはいえ、人間の醜さ、愚かさ、悲しさを凝視し告発する作品の迫力は十分に伝わり、見るものを思わず沈黙させてしまう。

「黒い絵の室」を出ると、西洋絵画史上の名品「裸のマハ」と「着衣のマハ」の二作品に出会う。作家の大佛次郎は会場を一周した後、「やっぱり、マハはいい。安らぎを感じますね」と言いながら、再びこの「マハ」の前に戻ってきたそうである。何かホッとさせる魅力が備わっているのであろう。多くの観客が、再びこの絵の前に立ち戻ってきて見入っていた。この「マハ」には、スペインから来た市民護衛官二人が正装して護衛するという珍しい光景も見られた。

二階の展示室には、おもに版画を中心に、これ以外の油彩画やデッサンの作品が並べられている。愛好家の人気の的、「ロス・カプリーチョス（気まぐれ）」の連作も来ていて、諷刺のきいたゴヤの真骨頂を味わうことができた。

「多くの皆さんに見てもらいたいのは山々ですが、あまり見物人が来すぎても困るんじゃないんですか」と今日出海が心配するほどに入場者数が膨らみ、東京展（一一月一六日～翌四七年一月二三日）と京都展（四七年一月二九日～三月一五日）とを合わせてその数は総計一〇〇万人を超える勢いとなった。

また、美術展では珍しく記念タバコも発売された。「チェリー」の箱の表と裏に「裸のマハ」と「着衣のマハ」を配置したもので、東京で一三五万箱、京都では五〇万箱売り出された。専売公社の担当者が「これほど美しい記念タバコは、以後、二度と出ないのではないか」と自賛するほどの出来映えだった。一方、地下鉄では「裸のマハ」を使ったポスターが盗難にあうなどの騒ぎも起こった。

スペインのサラゴサに生まれたゴヤは、一七八九年には宮廷画家に任命され、社会的には絶頂期を迎える。その後、一七九二年に重病を患い、聴覚を失ったにもかかわらず、鋭い人間観察を続け、人間の存在を告発する多数の作品を生み出した。特に人間の官能美と、とりわけ愚かさと醜さを追求。今では、近代絵画および現代絵画への道を開いたハイオニアとして評価されている。

▲「黒い絵」の中の1点、「わが子を食うサトゥルヌス」。

▲並べて展示された2枚の「マハ」の前に詰めかける入場者。19世紀当時は、「裸」の上に「着衣」が、目隠しにかけられていたともいう。 毎日新聞社

▲「裸のマハ」1798～1805年頃。油彩、95×190センチ。1815年、この絵が猥褻であるとして、ゴヤは宗教裁判にかけられた。

▲「着衣のマハ」1798～1805年頃。油彩、95×190センチ。「裸のマハ」と対をなし、まったく同じポーズをとる

20世紀博物館

世界のタイル博物館

今では再現できない珍品も見られる世界唯一の〝研究博物館〟

愛知・常滑市

桑原茂夫

▲18世紀オランダのタイル工房の様子を描いたタイル絵。オランダの博物館からこの博物館に提供されたもの。

◀入り口にあるアーチと床のタイル。エジプトや中東、イギリスの歴史的なタイルを再現している。 石井英雄

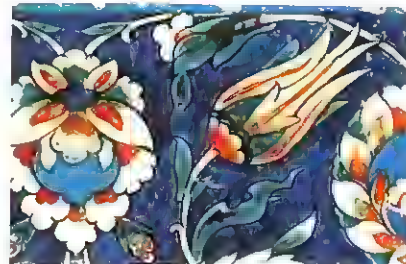
土を焼いて固めたタイルは、中東やヨーロッパではかなり古い歴史を持っている。現存する最古のタイルと目されているのは、エジプトのピラミッドの中で、墓の壁面に貼られたタイルだ。しかもこのタイルは、四〇〇〇年を超える大昔から鮮やかなブルーをずっと保ち続けてきたのだという。破損せず、色落ちもしないタイルを作る、技術的ノウハウを持っていたのだ。ひと口にタイルと言っても、なかなか奥が深いのである。

このようなタイルを、世界中から集めた「世界のタイル博物館」が、陶磁器の町、愛知県常滑市にある。当地に本社を持つINAXが設立し、運営している、世界で唯一のタイル博物館なのである。

この博物館には、山本正之氏という、タイルの専門家が世界中から集めた約六〇〇〇点のタイルが収蔵され、そのうち一〇〇〇点ほどが展示されている。それらを見てまわるだけでも、その歴史の古さや多様さに驚かされるが、そもそも日本人にはなじみの薄いタイルについて、その素材や製造法、種類などを知ることのできるコーナーがあり、ここでは、タイルが手のこんだ〝やきもの〟であることをあらためて教えられることになる。

入り口には、タイルで装飾された高いアーチが待ち構えており、足元の床にはカラフルな図柄のタイルが埋めこまれている。アーチのタイルはエジプトや中東の歴史的なタイルを、また、床のタイルは今世紀初頭のイギリス・ビクトリア朝時代のタイルを再現したものだという。

そして床のタイルは〝象嵌タイル〟だ。つまり、図柄がタイル表面に描かれているのではなく、図柄を構成する、楕円とか多角形といった要素のひとつひとつが独立したタイルとして作られ、これを組み合わせたりはめこんだりして全体が構成されている。出来あがりは金太郎飴のようになる。床の表面が削れても図柄はいつも新鮮というわけだ。

▲世界最古の、エジプトのピラミッド内の墓に貼られていたタイル。

▲16世紀トルコのイズニック地方の、製法が謎のままのタイル。

イギリス・ビクトリア朝時代には、こうした工夫を工業化して、量産体制が整えられたという。陶磁器の名門、ウェッジウッドやミントンも、そうしたタイルを作っていた会社であり、タイルの裏にその名が刻印されている。

かと思うと、一六世紀トルコのイズニック地方の窯で焼かれた〝イズニックタイル〟は、トマト赤、トルコ青と言われる独特の赤色青色を呈するものだが、これは工業化されることもなく、いまだに再現することさえできない、謎のタイルなのだという。

博物館の中野文隆氏によると、この博物館は〝研究博物館〟なのだそうだ。タイル情報を可能な限り公開し、いろいろな分野における多様な研究の参考になれば、と中野氏は言う。それだけ、タイルの世界が奥深いことを、博物館側は認識しているのである。

●世界のタイル博物館
愛知県常滑市奥栄町一―一三〇
☎〇五六九―三四―八二八二
名鉄常滑駅より知多半田行きバスで「常滑東口」下車、徒歩二分
開館時間＝一〇時～一七時
休館日＝第四月曜日、年末年始、夏期
入場料＝一般五〇〇円

株大暴落で吹っ飛んだ1兆1666億円
〝ドル・ショック〟日本経済を直撃！
――「1ドル＝360円」時代が終わった

▲12月20日、1ドル＝308円に切り上げられた新為替レートが実施された。年末歳暮商戦とも重なり、都内のデパートでは、すかさず便乗バーゲンセールを開始。 朝日新聞社

一九七一年（昭和四六）八月一五日、ニクソン米大統領が抜き打ち的に発表したドル防衛策により、一ドル＝三六〇円の時代は終わりを告げ、円は「変動相場制」に移行する。しかし、この〝ドル・ショック〟から円切り上げにいたる混乱にも耐え、その後も日本経済は堅調な輸出を続け、「実力」を証明していった。

ドル凋落で大混乱 暮らしへの不安も

「私は国際収支の改善をはかり、雇用を拡大し、ドルを防衛するため、ひとつの新しい措置をとることにした。それは不公平な為替レートによって米国製品がこうむる恐れのある不利益からまぬがれるためのものである」

八月一五日午後九時（日本時間一六日午前一〇時）、アメリカのニクソン大統領は全米向けのテレビ・ラジオ放送を通じて、ドルと金の交換の一時停止、主要各国の通貨切り上げ要求、一〇％の輸入課徴金の新設という「新経済政策」を発表した。ドルの凋落による国際金融体制の崩壊と再編成を告げる〝ドル・ショック〟が、全世界を駆けめぐった

▲ドル防衛策を発表するニクソン大統領

この日、東京証券取引所には大量の売りが殺到。松下、トヨタなど対米輸出比率の高い株式が軒並み急落し、平均株価はダウ平均で二一〇円五〇銭安と過去最大の暴落を記録、一日で、一兆一六六六億円が吹っ飛んだ。

一方、翌年に復帰を控えた沖縄では、生活必需品の八割を本土からの輸入にたよっていたため、ドル不安から物価が急騰、琉球政府は八月二三日に「円通貨への即時切り換え」を日米両国に訴えた。しかし、八月二八日の「変動相場制」移行、一二月二〇日の円大幅切り上げと、事態の深刻化にもかかわらずそのまま放置され、円との交換比率の悪化による沖縄経済の損失は、復帰までに六〇〇億円以上にものぼった（琉球銀行調べ）。またしても沖縄は、日米のはざまで犠牲を強いられる形になったのである。

暮らしへの不安も広がった。新聞には「首切り」「倹約時代の再来」（『朝日新聞』八月二〇日）といった見出しも乱れ飛び、事実、"ドル・ショック"直後の九月期法人決算の申告所得額は三月を七・三八％下回り、主要二八〇社の暮れのボーナスの伸び率は、前年の一九・三％から九・六％へと大幅にダウンした。また金属洋食器の産地である新潟県燕市では、年末納期で製造中だった一七億円分の食器を含めて四〇億円がキャンセルされ、製造中止も相次ぐなど、中小の輸出企業はさらに大きな打撃をこうむったのである。

多くの中小業者を抱える日本繊維産業連盟の谷口豊三郎会長は、「昭和元禄は吹っ飛んでしまった」（『毎日新聞』八月二八日）と、慨嘆した。

円切り上げも克服 日本経済の「実力」

「ケンブリッジ大学留学中のことです。ノーベル経済学賞を受賞したハーバード大学のレオンティエフ教授から、日米の貿易不均衡の是正策をアメリカ政府に依頼され、円の切り上げを提言したということを聞きました。ニクソン・ショックの三ヵ月前のことです。一九六〇年代後半から国際通貨の専門家たちの間では、『金・ドル本位制』は崩壊し、『変動相場制』に移行することは予想されていましたが、日本にとっては初めての経験。乗り越えられるかどうか大変不安でしたね」

こう語るのは、その後丸紅㈱勤務を経て、現在多摩大学教授の井上宗迪氏である。

戦後の日本経済は、金一オンス（二八・三五グラム）＝三五ドルという金・ドル本位制のもと、一ドル＝三六〇円という安定した為替レートを背景に高度成長を続け、一九六〇年代後半には貿易収支の黒字が急増、外貨準備高も昭和四六年七月には約八〇億ドルに達し、「強い円」はすでに定着していたのである。

為替調整が行われたのは一二月一七・一八日の両日、ワシントンのスミソニアン博物館で開かれた一〇ヵ国蔵相会議の席上であった。

その結果、輸入課徴金の撤廃、円の対ドルレートを一六・八八％切り上げ、一ドル＝三〇八円にすることなどが合意されたが、それも長くは続かなかった。ベトナム戦争の後遺症や国際競争力低下で、アメリカの国際収支は赤字が拡大し国際通貨不安が再燃したからだ。このため円は、昭和四八年二月、一ドル＝二七〇円台で再び変動相場制に移行し、その後も二四〇円（五二年末）、一六〇円一〇銭（六一年末）とジリジリと上昇していった。

しかし円の切り上げによるメリットも大きかった。高度成長を背景に消費の個性化が進み、日本は原材料中心から消費財中心の輸入構造へ転換する時期を迎えていたからだ。

中でも高級品に人気が集まった。北欧の家具やイタリア、フランスの照明器具も輸入され、ハンドバッグや時計などの海外ブランドに熱い視線が注がれるようになった。また強い円は、海外旅行ブームをもたらすなど、日本人の余暇や消費スタイルを大きく変えることになった。

輸出関連企業も、一二月頃からは一ドル＝三〇〇円を自社レートとして設定し、取り引きを再開する一方で、為替リスクを回避するために"円建て契約"への転換を積極的に進めていった。

製品の国際競争力もものをいった。自動車や家電など、世界に誇る強い商品は海外の販売網をバックに、変動相場制への移行にともなう損失金を価格に転嫁することでカバーし、その後も技術革新や合理化を推し進め、高付加価値生産体制を着々と作り上げていったのである

▲12月20日、大幅な円切り上げを伝える新聞の号外。「不況下の物価高」に対する不安が広がった。東京 新宿の歩行者天国にて。

●対ドル円相場の推移

◀一二月一七、一八日、ワシントンで開かれた一〇ヵ国蔵相会議にのぞむ、水田蔵相（中央）と佐々木日銀総裁（左端）

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

▲環境庁発足（7月1日）公害問題の深刻化にともなって中央公害対策本部を改組・強化し「公害の番人」ができた。初代長官には山中貞則が就任したが、5日の内閣改造で大石武一に代わった。

▼「フクちゃん」を励ます会（7月17日）「毎日新聞」連載が5月、5534回で完結。40年の健闘をたたえて、東京で作者・横山隆一（左）を囲む会が開かれた。右は発起人の加藤芳郎。

◀江夏、オールスター戦で9連続奪三振（7月17日）公式戦ではここまで6勝9敗と不調だったが、ファン投票1位に奮起、阪神の同僚・田淵相手に小気味のいい投球を繰り返し、阪急・長池らパの強打者をなで切りにした。

日刊スポーツ

▼岩手県雫石町で全日空機が自衛隊機と空中衝突（7月30日）墜落した千歳発羽田行のボーイング727機は乗客乗員162人全員が死亡、自衛隊機の二人は脱出して無事。ずさんな訓練計画による自衛隊機の民間航空路侵入が原因。

WWP

▲キッシンジャー、北京を極秘訪問（7月9日）アジア歴訪中、日本政府には知らさずニクソン訪中の準備を着々と進めていた。写真は周恩来首相（中央）と会談するキ大統領特別補佐官（左）。

▼グレープフルーツ出まわる（7月）前月30日輸入の自由化を実施。写真は7月13日、東京 新宿のタカノ店頭。南アフリカ産が初入荷したが、なかなか安くならなかった。

昭和46年7月

1（木）●日本医師会、四県のぞき全国で保険医辞退開始。●[illegible]

2（金）●南海・野村克也、プロ入り一八年目で五〇〇号本塁打達成。

3（土）●東亜国内航空のYS11「ばんだい号」が函館郊外に墜落。六八人全員死亡。

4（日）●濃霧の熊野灘で貨物船二隻沈没。一〇人不明。

5（月）●大阪そごう、宇和島湾内の無人島を売り出す。

6（火）●阪急・長池徳二、三二試合連続安打の日本記録。

7（水）●状況劇場、山中湖に稽古場「乞食城」を開設。

8（木）●水飢饉の沖縄で隔日一四時間断水を開始。

9（金）●[illegible]

10（土）●中高生にストレスによる学習不適応症候群が増加と東北学校保健学会で報告。

11（日）●九頭竜ダム湖畔で釣り客が熊を自力で撃退。

12（月）●大石武一環境庁長官、四日市市を初視察。

13（火）●警察庁、コカコーラの瓶の破裂事故で調査。

14（水）●二段階絶対評価の小学校が出現と新聞に。

15（木）●沖縄の毒ガス第二次移送開始。●[illegible]

16（金）●いすゞ自動車と米GM社、資本提携協定調印。

17（土）●[illegible]成功 ●[illegible]

18（日）●保険医辞退で公立病院に患者殺到と新聞に。

19（月）●東京地裁、服装の乱れで教員解雇に無効判決。

20（火）●[illegible]

21（水）●「屋根の上のヴァイオリン弾き」が一八四五回の米ブロードウェー公演最長記録を達成。

22（木）●金嬉老事件を取材したTBS記者 城所賢一郎、静岡地裁の拘引命令に対し証言を拒否。

23（金）●米子市の銀行で赤軍派が六〇〇万円強奪。

24（土）●運輸省、国内線の外国人パイロット廃止決定。

25（日）●名古屋大、熱核融合反応の発生に成功。

26（月）●[illegible]強

27（火）●かつての米産地葛飾区で出荷ゼロと新聞に。

28（水）●日本医師会会長・武見太郎、佐藤首相と会談し保険医総辞退中止を決定（8月1日実施）。

29（木）●公取委、ペプシコーラの王冠籤は景品総額が限度超えると排除命令。

30（金）●岩手県雫石町で全日空機と自衛隊機が衝突。一六二人全員死亡、自衛隊員は脱出。

31（土）●農家数は前年より八万三〇〇〇戸減と農林省。

証言・あの日この日

佐藤栄作（70）

8月20日（金）〈午前中浅利慶太君が来て、戦時中当地で過した話をしてくれた。石原慎太郎君の許しを得度いといっていたが、遂に余りいい返事はしなかった。中曽根康弘君持参のウドンを御馳走になり、午後中曽根君は改めて来宅。近況、殊に引続く「為五郎」事件につき話合ふ〉（『佐藤栄作日記』）

「当地」というのは、避暑に来ている軽井沢、「石原慎太郎君の許し」とは、石原氏の参院から衆院への鞍替えの件のことである。それにしても、この年の夏のアメリカ・ニクソン大統領は、翌年5月までの訪中発表（7月16日）、ドルと金の交換の一時停止、いわゆるドル・ショック（8月15日）と、テレビの人気番組「巨泉・前武ゲバゲバ90分」でのハナ肇のセリフではないが、次々と、日本政府を「あっと驚」かせてくれた。（坪内祐三）

野上透

◀自衛隊員刺殺事件（8月22日）現場の埼玉県朝霞駐屯地に残された「赤衛軍」とあるヘルメット（写真）から、11月過激派の日大生ら3人を逮捕。警察が「事件の黒幕」とした京大助手・滝田修を11年後、別件逮捕する。

共同通信社

▲北海道に「ムツゴロウ王国」（8月13日）作家・畑正憲（右）が4月から家族とともに無人島に居住し、著書「われら動物みな兄弟」を地でいく動物たちとの共生生活。翌年には中標津町に移り、動物農場建国宣言を出した。

▼密航者の通報を奨励（8月）日本海に面した京都府網野町に写真の看板が登場。昭和26年施行の出入国管理令には、通報者への報償金規定があり、「入管法」の現在もそうである。

▼「アポロ15号」月面活動の新記録（8月2日）前月30日、着陸船「ファルコン」で軟着陸成功（写真）。スコット、アーウィン両飛行士は岩石採取など3日間で18時間36分もの作業を行った。

朝日新聞社　WWP

毎日新聞社

▲大阪空港騒音反対運動（8月3日）昭和44年12月、周辺住民が飛行時間制限や被害賠償などを求め、公共性を主張する国を提訴、以降、広く国民に支援を訴える運動を起こした。写真は騒音公害反対のアドバルーン。

昭和46年8月

1（日）●増原防衛庁長官、雫石事故で辞表提出。

2（月）●名古屋市に全国初の小児喘息専門病院が開業。

3（火）●民社党の第三代委員長に春日一幸選出。

4（水）●第四次資本自由化実施。直接投資を自由化。

5（木）●原爆ドーム使った「ディスカバージャパン」のポスターを被爆者らが批判と新聞に。

6（金）●[illegible]首相

7（土）●警視総監公舎に仕掛けられた時限爆弾発見。

8（日）●視力障害者五人が盲導犬連れ富士山に登頂。

9（月）●大阪で初の光化学スモッグ注意報発令。

10（火）●全国一万一〇〇〇工場に公害防止管理者の設置義務化を閣議決定。

11（水）●那覇市で米兵の暴行事件から市民数百人が米国人の自動車を焼き討ち。

12（木）●運輸省、航空三社に国内便大幅減を指示。

13（金）●日本医師会、医療料金の物価スライド制要求。

14（土）●下関上空で海自機と全日空機がニアミス。

15（日）●[illegible]停止

16（月）●東証株価が暴落、外為ではドル売り殺到。●文部省、放送大学の実験放送を開始。

17（火）●[illegible]

18（水）●東京タワー入場者が五〇〇〇万人を突破。

19（木）●寿命は男六九・三歳、女七四・七歳と厚生省。

20（金）●博多湾で突風のためヨット一二隻が転覆。

21（土）●[illegible]

22（日）●目黒区の警視庁職員住宅で消火器爆弾爆発。

23（月）●日立、翌春の中高生採用ゼロを全職安に通知。●坂本九と柏木由紀子が婚約を発表。

24（火）●沖縄立法院、国際海洋博覧会の開催要請決議。

25（水）●藤田敏八監督「八月の濡れた砂」封切。

26（木）●神奈川県の狩川で工場廃水によりアユなど数十万匹が死ぬ。

27（金）●レンタカー業者が事故を起こしたマイクロバスは欠陥車と、日産社長らを告発。

28（土）●[illegible] ●東京消防庁、地震感応型の石油ストーブ自動消火装置を公開。

29（日）●国鉄只見線の会津若松―小出間が全通。

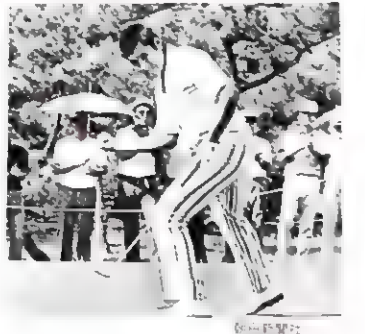
30（月）●名古屋市で早朝割引のボウリング場[illegible]が殺到し、九人負傷。

31（火）●外貨準備高が西独[illegible]

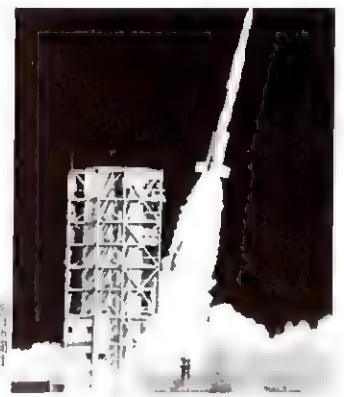
▼ジャンボ尾崎、初タイトル(9月19日)宮崎市のフェニックス・カントリーで行われた日本プロゴルフ選手権大会で、野球投手から転身してプロ2年目の尾崎将司が優勝。翌年から3年連続して賞金王、昭和48年には年間10勝をあげる。

◀ニューヨーク州の刑務所で暴動(9月8日)アッティカ刑務所で、囚人約1200人が看守38人を人質にとり、待遇改善を要求したが、13日、州兵が出動して暴動を鎮圧し、囚人・人質39人が死亡した。

▼初の科学衛星、地球軌道に(9月28日)太陽電波、宇宙線などの観測器を積み、鹿児島県内之浦から打ち上げられたもの。3つ目の国産衛星で「しんせい」と名づけられた。

▲成田空港、第2次代執行(9月16日)2月の第1次に続いて千葉県と空港公団は、天浪・駒井野団結小屋(写真)など4ヵ所で代執行を開始し、小屋は撤去された。

▼北海道に「カニ族」来襲(9月)大きなザックを背負った若者たちの姿が、カニを連想させることから、「カニ族」と呼ばれた。周遊券を使い、安い宿泊施設で寝泊まりし、北海道の秘境めぐりを楽しんだ。

昭和46年9月

1(水) ●公取委、懸賞賞金最高額を一〇〇万円に制限

2(木) ●アラブ連合、アラブ共和国連邦の結成にともない現在のエジプト・アラブ共和国と改称。

3(金) ●東京高裁、「正露丸」は一般名称と判示、大幸薬品の商標登録を取り消す

4(土) ●文部省、初の私立医大の入学寄付金調査を発表。平均六〇〇万円、最高一〇〇〇万円。

5(日) ●二日発生の異常高潮が東北のぞく太平洋沿岸全域に拡大。各地で浸水被害が続出

6(月) ●富士銀行、二支店で現金自動支払機を稼働。

7(火) ●劇団天井桟敷、ベオグラード国際演劇祭に参加（寺山修司作「邪宗門」でグランプリ）。

8(水) ●中国共産党副主席、林彪、毛沢東暗殺クーデターに失敗。13日逃亡飛行中に墜落死。

9(木) ●通産省、有害重金属排出の工場調査を企業名隠して発表。

10(金) ●写真家ユージン・スミス、水俣病を記録するためアイリーンとともに水俣に入る。

11(土) ●二〇道府県が、毒性廃液たれ流し工場名公表。

12(日) ●ミュンヘン国際マラソンで宇佐美彰朗優勝。

13(月) ●広島県、水鳥を一〇年間全面捕獲禁止に。

14(火) ●中央公害対策審議会発足。

15(水) ●「健康で安心できる老後をつくる全国大集会」、

16(木) ●[illegible]第二次代執行を強行。四十[illegible]人逮捕、機動隊員三人死亡。

17(金) ●前年の民間平均年収は一六%増と国税庁発表。

18(土) ●国立西洋美術館が購入したモジリアニなど名画[illegible]か贋作と判明。

●日清食品、「カップヌードル」を発売。

19(日) ●尾崎将司、日本プロゴルフ選手権で初優勝。

20(月) ●横須賀沖で海中居住実験基地を敷設。

21(火) ●カシオ、二万八七〇〇円の電卓AS8を発売。

22(水) ●南北朝鮮間に赤十字通じ二六年ぶり直通電話

23(木) ●三菱金属鉱業、生野など二鉱山閉鎖を通告。

24(金) ●東京湾で車五〇台積んだ運搬船が衝突、沈没。

25(土) ●天皇訪欧反対の中核派四人が宮内庁に突入。

●テレビ漫画「天才バカボン」の放映開始。

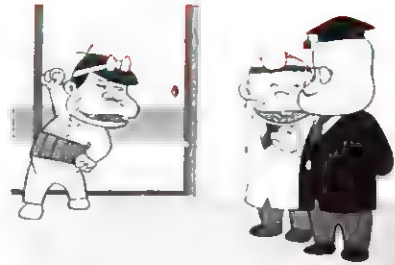
26(日) ●交通災害遺児は九万五千余人と総理府発表。

27(月) ●天皇・皇后、一八日間の訪欧に出発。

28(火) ●美濃部都知事、都議会で「ゴミ戦争宣言」。

●日本初の科学衛星「しんせい」、打ち上げ成功。

29(水) ●新潟水俣病裁判で患者側勝訴。賠償額は減額。

30(木) ●写真家・白川義員、作品を盗用されたとデザイナーのマッド・アマノを提訴。

▲「天才バカボン」放映開始(9月25日)原作は昭和42年から「週刊少年マガジン」に連載された赤塚不二夫のギャグ漫画。日本テレビ系列で放送され、「コレデイーノダ」を連発するパパの方が人気になった。

◀天皇・皇后訪欧(10月5日)デンマーク、ベルギーなど7ヵ国を親善訪問。戦争責任を問う「父を返せ」のプラカードなど一部に険悪な空気もあったが、この日イギリスを訪れ、エリザベス女王の大歓迎を受けた。

◀全国初のノーカー・デー(10月3日)東京・八王子市が実施した「交通戦争一日休戦」運動で、市民が自主的にノーカー・デーを企画したもの。裏通りの交通量は普段の日曜日の6~7割減となり、交差点の一酸化炭素濃度も減少した。写真は一般市民に協力を呼びかける警官。

▶中国国連加盟、正式に決定(10月25日)中国招請・台湾追放のアルバニア案が賛成76、反対35、棄権17で可決。日米は3分の2の賛成が必要という提案を行っていたが否決された。

◀大盛況のルノワール展(10月12日)東京・池袋の西武百貨店で、フランスが生んだ印象派の巨匠、ルノワールの作品約80点が展示され、約1ヵ月半の期間中、会場は超満員の人出が続いた。

▶ドル・ショック、繊維業界直撃(10月)7月からの繊維対米輸出自主規制に加え、8月15日、ニクソン米大統領の新経済政策で操業短縮をする零細企業が急増。写真は愛知県蒲郡市での機械解体作業。

昭和46年10月

1(金) ●戦後初の都銀合併で第一勧業銀行発足。

●建設省、五〇年ぶり地殻のひずみ調査を発表。

2(土) ●ビスコンティ監督「ベニスに死す」封切。

3(日) ●「スター誕生」放映開始（合格一号は森昌子）。

●八王子市で全国初の「ノーカー・デー」[illegible]

4(月) ●通産省、初の「資源白書」を発表。

5(火) ●[illegible]国鉄のマル生運動による不当労働[illegible]。[illegible]日、国鉄が国労に陳謝。

6(水) ●警察庁集計でこの年押収の短銃は二〇〇丁

7(木) ●ニュージーランドから初の鮮魚の空輸開始

8(金) ●王貞治が一〇年連続の本塁打王、長島茂雄が六度目の首位打者、ともに新記録。

9(土) ●国鉄南武線で米軍列車狙い爆発物三個が爆発。

10(日) ●NHK総合テレビが全番組カラー化を実施

11(月) ●ハイジャック防止条約、公布。

12(火) ●西独のボンで天皇訪問への抗議デモ。

13(水) ●伊豆半島の野生の鹿が絶滅寸前と新聞に

14(木) ●札幌検察審査会、"和田心臓移植事件"の不起訴を不相当とし、再捜査を要求。

15(金) ●日米繊維問題の政府間協定に仮調印

16(土) ●佐多稲子らが成田空港問題で抗議声明を発表

17(日) ●東京医歯大の外村晶、国際不妊学会で妊娠一カ月で男女判定は一〇〇%可能と報告。

18(月) ●東京の日石本館内郵便局で警察庁長官・後藤田正晴ら宛の小包二つが爆発。

19(火) ●首相所信演説中の衆議院傍聴席で爆竹破裂

20(水) ●横浜国大で中核派が革マル派襲撃、一人死亡

21(木) ●富士通と日立、コンピュータ部門提携に調印（11月、日本電気と東芝、沖電気と三菱も）

22(金) ●北朝鮮への最終帰還船が新潟出港、計九万[illegible]

23(土) ●全国で最後に大阪府議会が日中国交回復決議

24(日) ●アニメ「ルパン三世」の放映開始

25(月) ●[illegible]

●[illegible]の近鉄総谷トンネルで電車同士が正面衝突、二五人死亡、六八人が重軽傷

26(火) ●ソニー、日本のメーカーとしては初めて[illegible]テレビ組立工場を建設と発表

27(水) ●中村敦夫、原田芳雄、市原悦子ら俳優座脱退

28(木) ●沖縄で女性[illegible]人がオートバイによる飲酒運転で[illegible]

29(金) ●台風被害が戦後最大[illegible]

●英議会、英国のEC加盟を可決

30(土) ●帝国石油など[illegible]社、ナイジェリア[illegible]社と同国沖の油田を共同開発と発表

31(日) ●[illegible]

◀男子バスケット五輪出場（11月10日）第6回アジア男子バスケットボール選手権大会兼ミュンヘン・オリンピック予選最終日のこの日、日本は76対68で韓国を破り、五輪出場を決めた。

朝日新聞社

▲東北・上越新幹線着工（11月28日）昭和52年春開業をめざし、8都県で起工式が行われたが、用地買収に手間取り、57年に盛岡・新潟から大宮まで開業した。写真は仙台駅での鍬入れ。

時事通信社

◀死の灰をあびた「第五福竜丸」、永久保存に（11月）昭和44年、保存委員会が発足し、翌年には練習船「はやぶさ丸」から元の名に。この年、沈没同様だった船を排水、浮上させ、夢の島の現在地に移した。そして、埋め立て地の進捗とともに地上に固定する方針が決定。

▼大映、解散へ（11月29日）映画産業斜陽の中で、従業員約770人の解雇と業務停止を労組に通告した。写真は30日、「本日限り」の看板が出された東京の新宿大映。「悪名尼」「蜘蛛の湯女」が最後の上映作品。

時事通信社

▲水俣病自主交渉派の川本輝夫さん、ハンスト宣言（11月1日）水俣病で父を失いみずからも苦しむ川本さんは、チッソの誠意ある回答を求め、チッソ水俣支社前で、仲間17人と座りこみを断行した。

塩田武史

▶青函トンネル着工（11月14日）北海道福島町の吉岡小学校グラウンドで、町民・作業関係者など2000人が見守る中で起工式を行った。完成は昭和54年春の予定だったが、ようやく63年3月13日、函館発の一番列車が、53.85キロのトンネルを通過した。

共同通信社

昭和46年11月

1（月）●バレーボール協会、来年中国を招待と決定。

2（火）●東京地検、日本自動車ユーザーユニオンの専務らを本田技研恐喝容疑で逮捕。

3（水）●理容組合が長髪技術講習映画を作成と新聞に。

4（木）●日本一安い村民税の静岡県可美村、法人税激減のため村民税引き上げを決定。

5（金）●警察庁、赤軍派と京浜安保共闘（連合赤軍）の幹部一〇人を全国に特別公開手配。

6（土）●米、アリューシャン列島で地下核実験を強行。

7（日）●乳児死亡率は男が女の一・六五倍と学会発表。

8（月）●「桂小金治アフタヌーンショー」で放映の指名手配犯が通報で四〇分後に逮捕される。

9（火）●日米親善野球で対オリオールズ一二戦目で日本初勝利（最終成績二勝一二敗二分）。

10（水）●沖縄で返還協定批准反対のゼネストに突入。
●周恩来首相、佐藤政権とは国交正常化交渉をしないと言明。

11（木）●川崎で人工崖崩れ実験中に事故、一五人死亡。

12（金）●財界四団体首脳による初の大型使節団が訪中。

13（土）●遭難続出の谷川岳で危険地域の登山禁止。

14（日）●青函トンネル起工式、北海道福島町で挙行。

15（月）●喬冠華中国首席代表、国連で「二つの中国」画策は失敗と初演説。

16（火）●楢崎弥之助、岩国基地に核貯蔵の疑いと発言。

17（水）●自民党、衆院特別委で沖縄返還協定強行採決。

18（木）●一八年ぶりにてビスビール販売と新聞に。

19（金）●四四単産約二〇〇万人が一七日の沖縄返還協定強行採決に抗議し全国で一斉スト。
●日比谷公園内の松本楼が放火で全焼。

20（土）●日活、ロマンポルノ路線の第一作「団地妻 昼下りの情事」など封切。

21（日）●住友商事マニラ所長が同市郊外で射殺される。

22（月）●警視庁、初の裏通りでの速度違反取締り開始。

23（火）●服部時計店が日誤差〇・二秒以内の水晶電子腕時計を発売、と新聞に。

24（水）●飼料用古々米を徳用上米で販売と食糧庁決定。

25（木）●NHKカラー受信契約が一〇〇〇万件を突破。

26（金）●ステンレス鋼六社に初の不況カルテル認可。

27（土）●大岡昇平、日本芸術院会員選出を辞退。
●官房長官、北欧の邦人ヒッピーを送還と言明。

28（日）●[illegible]

29（月）●大映、経営悪化で[illegible]倒産。

30（火）●三菱重工株主総会でベ平連の一株株主約二〇〇人が発言を妨害され暴行受ける。

朝日新聞社

▶土田警視庁警務部長宅に小包爆弾（12月18日）民子夫人が死亡、四男が重傷を負った。過激派の犯行として、10人が逮捕されたが、全員無罪となった。

時事通信社

▼新宿ツリー爆弾（12月24日）伊勢丹デパート前の追分派出所横で、クリスマス・ツリーをよそおった鉄パイプ爆弾が爆発。警官二人、通行人10人が重軽傷を負った。

▲ゴミ戦争見学バス（12月1日）ゴミ処理に悩む東京都が企画したもの。美濃部都知事など80人が、夢の島（写真）や激しい反対運動のあった世田谷清掃工場を見学した。

▼ソウルでホテル火災（12月25日）21階建ての大然閣ホテルが全焼。死者158人、重軽傷者49人の大惨事となった。写真はマットレスを抱いて飛び下りる泊まり客。

キム・ドン・ジュン／UPI・サン、共同通信社

朝日新聞社

▲札幌で地下鉄開通（12月16日）翌年2月の冬季オリンピックをめざして、12.6キロの南北線が完成し、大通駅で開通式が行われた。騒音防止のために、車輪にゴムタイヤを使うなどの最新技術が導入された。

朝日新聞社

▲ベトナム反戦女優、ジェーン・フォンダ来日（12月7日）アメリカの反戦演劇集団の一員として、米軍横田基地のある東京・福生市で公演を行い、沖縄では、嘉手納基地で全沖縄軍労の人々に支援の挨拶をした（写真）。

昭和46年12月

1（水）●衆院で大相撲の八百長問題が質疑される。

2（木）●東海道本線が赤字に転落と国鉄発表。
●[illegible]初成功。

3（金）●インド、バングラデシュ支援のためパキスタンへ侵攻（〜17日。第三次印パ戦争）。

4（土）●豊中市営浄水場で塩素ガス噴出。五〇〇世帯が避難し、一二〇人中毒。

5（日）●九月に盗まれた三島由紀夫の遺骨発見される。

6（月）●韓国大統領 朴正熙、国家非常事態を宣言。

7（火）●米反戦女優ジェーン・フォンダら自由劇団、羽田で入国拒否（15日許可）。

8（水）●トヨタ・日産が世界三位・五位にと新聞に。

9（木）●都の町村会、都市部のゴミ投棄拒否を決議。

10（金）●大阪地裁、出産退職制は違法と判示。

11（土）●「スマイルバッジ」が爆発的売れ行きと新聞に。

12（日）●熱海市の東条英機らの顕彰碑が爆破される。

13（月）●主要都市の生活費一位はニューヨーク、東京は一三位だが家賃は世界一、と英紙発表。

14（火）●山形市の動物園が経営難から虎など八種射殺。

15（水）●宇高連絡船、海汚染理由に別れのテープ廃止。

16（木）●札幌市で北二十四条—真駒内の地下鉄開業。

17（金）●公取委、年商一〇〇億円の「カツオだし」の半数は混ぜ物と即席スープ協会に警告。

18（土）●一〇カ国蔵相会議、ドルの切り下げに合意（スミソニアン合意）。
●土田警視庁警務部長宅に小包爆弾、夫人が即死。

19（日）●日本フィル労組が賃上げで全面ストに突入。
●有馬記念で馬のインフルエンザによる出走取り消しが続出（全国の競走馬に流行）。

20（月）●一ドル＝三〇八円の新為替レート実施。

21（火）●首都高速と東名高速が接続し成田—明石直通。

22（水）●国連事務総長にカール・ワルトハイム任命。

23（木）●ボーナス伸び率は四〇年以来最低と労働省。

24（金）●東京・新宿の派出所でクリスマスツリーに仕掛けの鉄パイプ爆弾が爆発[illegible]。

25（土）●韓国・ソウルの二一階建てホテル「大然閣」が全焼。五八人死亡（うち日本人一〇人）。

26（日）●米、ベトナムへの北爆再開（五日間の猛爆）。

27（月）●北の湖、史上最年少一八歳七カ月で新入幕。

28（火）●大石環境庁長官、空港騒音の審議会答申を住民本位に異例の修正行い運輸相に勧告。

29（水）●参院議運委、和服で出席の[illegible]。

30（木）●自民党、沖縄関連四法案を単独強行可決。

31（金）●[illegible]

俄楽多市(がらくたいち)

◀4月、「ぼくらマガジン」で連載開始。歪んだ文明に対する自然の反逆という作者の意図が、仮面ライダーに託された。

流行語 写真撮りはVサインにピース

「ピース、ピース」。写真を撮られる時、Vサインを作ることは今や常識。昭和四六年、このポーズを流行させたのが井上順(タレント)で、テレビの司会でうまくいった時、Vサインを作りながら"ピース、ピース"とやったのが大当たり。言葉もVサインも若者の基本スタイルとして定着した

「ヘンシーン」。石森(現・石ノ森)章太郎のマンガ「仮面ライダー」がテレビ映画化されると、「ヘンシーン!」という掛け声とともに、主人公が仮面ライダーに変身するしぐさが子どもの間で大流行

「ガンバラナクッチャ」。中外製薬の「新グロモント」のCM 棒高跳びのバーを飛び越そうと必死の男(アニメ)に、"ガンバラナクッチャ"という早回しのテープの声 その自虐的な感じが中年サラリーマンに受けた、

「古い奴だとお思いでしょうが」。経済の高度成長は生活水準を大幅にアップさせる一方、世代間の断絶も抜きさしならないものになった この文句は鶴田浩二のヒット曲「傷だらけの人生」に挿入されたセリフだが、旧世代の思いを示す言葉として共感を呼んだ

住 いよいよ到来ワンルームマンション時代

ワンルームマンション時代が始まったのは昭和四六年である この年六月、東京・赤坂に「赤坂レジデンシャルホテル」がオープン "ホテルを分譲します"という宣伝コピーで人気を呼んだ これはホテルと銘打ったものの、実際はワンルームマンションで、一部屋(平均・五平方m)四 万円台だった 続いて東銀座に、中銀カプセルマンション」が完成 こちらは三六〇万~四八〇万円で、黒川紀章設計ということで話題になった

ワンルームマンションはいずれも「男を蘇らせる休息空間」といったことをうたい文句にしていた しかし実際の購入者は貸し部屋、転売などの利殖ねらいで、男が蘇るより、金儲けに目の色変える世相を象徴していた

(野口悠紀雄『月給取りの昭和史』)

サラリーマン 脱サラからベンチャービジネスの時代へ

昭和四六年には「ベンチャービジネス」という言葉が注目され始めた 脱サラ・ブームの中で「会社づとめがイヤになった」という受け身の姿勢から「自分の専門的な知識と技術を生かして、これまでになかった、まったく新しいタイプの企業をやってみたい」という積極的な人々がふえたのである

彼らは自分の理想を今の企業の中で実現することは不可能だと考えていた それは日本経済の新しい動きであると同時に、繁栄に慣れて、企業側が新しい芽を育てることができなくなりつつあることをも現していた

(内野敬一『私の昭和経済史』)

CM100年 俳優・アラン・ドロン

テレビCF「D'URBAN, C'EST L'ÉLÉGANCE DE L'HOMME MODERNE.
——ダーバン、それは現代を支える男のエレガンス。」(ダーバン)

▲12月21日発売の1000万円宝くじ 徹夜の行列ができた 中央・有楽町日劇前

子ども 「日本刀憲法切れず」小学生の見た三島事件

〔札幌発〕北海道江別市の大麻小学校では六年生の社会科の授業に"川柳"の学習を取り入れている 四六年最初のテーマは前年一一月に起こった"三島由紀夫切腹事件" 作品のいくつかを紹介すると、

「日本刀憲法切れず腹を切る」
「三島事件さくらの花の名演技」
「自衛隊三島由紀夫の命取り」

といった調子 大人たちのしたり顔した評論より、よほど鋭いと地元では大評判

(「週刊サンケイ」二月一五日号)

名物 ついに消えた練馬大根六〇〇年の歴史に幕

練馬区の調べで、今年の練馬大根の作付面積がゼロと判明 足利時代から六〇〇年続いた歴史に幕がおろされた 練馬大根の最盛期は軍と契約していた昭和七、八年から一四、五年で、実に一九〇〇㌶が大根畑で占められていた

(「朝日新聞」六月九日)

はやり歌

わたしの城下町

作詞 安井かずみ 作曲 平尾昌晃

格子戸を くぐりぬけ
見あげる夕焼けの空に
だれが歌うのか子守唄
わたしの城下町
好きだともいえずに
歩く川のほとり
往きかう人に
なぜか目をふせながら
心は燃えてゆく

家並みが とぎれたら
お寺の鐘がきこえる
四季の草花が咲き乱れ
わたしの城下町
*橋のたもとにともる
灯りのように ゆらゆらゆれる
初恋のもどかしさ
きまずく別れたの

(*印 繰り返し)

▲宝塚音楽学校出身の小柳ルミ子の歌でミリオンセラーに。レコード大賞最優秀新人賞も獲得。

また逢う日まで

また逢う日まで 逢える時まで
別れのそのわけは
話したくない
なぜかさみしいだけ
なぜかむなしいだけ
たがいに傷つき
すべてをなくすから
*ふたりでドアをしめて
ふたりで名前消して
その時心は何かを話すだろう

また逢う日まで 逢える時まで
あなたは何処にいて
何をしてるの
それは知りたくない
それはききたくない
たがいに気づかい
昨日にもどるから

(*印 二回繰り返し)

▲プレスリーを彷彿とさせる尾崎紀世彦が男っぽく歌って大ヒット。レコード大賞を受賞した。

三面記事 牛が食べた四六万円

〔徳島発〕徳島県市場町で飼っている牛に大枚四六万円を食べられた肉屋さんがいる 川村正夫さん(三三)で、自宅で飼っている五頭の牛に餌を食べさせてから一時間半後、ポケットに入れていた財布がなくなっているのに気がついた 中には一万円札と千円札で四六万円入っている

急いで牛舎に戻ってみると、一頭の牛の足元に財布が落ちていたが、中は空っぽで、財布には牛の歯形が残っていた 「さてはこいつに食べられたか」といったんはあきらめたものの、何といっても大金、「食肉センターで解剖してもらったら飲みこんだ分くらい取り返せるかもしれない」と犯人の牛を"連行" 話を聞きつけた銀行員らが、出てきたら預金してもらおうと見守る中、係員が一時間かけて解剖、丹念に胃を洗ったが、出てきたのは、まともなのが一万円札、千円札各三枚で、後は破片が約一〇点 結局川村さんはまともな三万三〇〇〇円と食肉用として売った牛の代金七万円を手にして帰っていった

(「徳島新聞」一〇月三〇日)

▲家庭用自動もちつき器「もちっ子」が発売になった。一晩水につけたもち米を蒸してつき上げた

山形の"久米の仙人"がもたらした幸運

〔山形発〕山形県長井市の映画館で、若い男性が二階からドスーンと落っこちた 幸い軽いケガですんだが、開館以来の珍事に館主は頭をかかえこんだ ところが翌日から押すな、押すなの大入り続き ついに上映期間を延長する騒ぎになった その理由だが、ケガした男性はピンク映画の濡れ場に興奮、思わずグーッと身を乗り出したとたん、ドデーン この話が町中に広がったため、「そんなにええ場面があるなら」と、男たちが我も我もと押し寄せたとか

(「週刊アサヒ芸能」二月四日号)

▲米国のバンド「グランド・ファンク・レイルロード」が7月17日の後楽園ロック・カーニバルに出演。観客3万人

データ 自分と他人ではこう違う結婚のアドバイス

協和銀行が結婚したばかりのサラリーマン夫人を対象に、「これから結婚する人へのアドバイス」という調査を行った まず自分が結婚した時のポイントを尋ねたところ、1相手の人柄七三、2健康六七、3愛情四八、4収入三五の順で、収入を気にする女性は四人に一人しかいない しかし、これが他人へのアドバイスになると、1健康六九㌫、2人柄六三、3収入五一、4愛情三六、と逆転、収入を望む声は倍にはね上がり、逆に愛情は最下位に転落してしまう これが理想と現実のギャップに目覚めた女性の本音だろうが、逆にいえば男にとっての針のムシロが早くも始まっているわけである

(「週刊新潮」三月三日号)

この年の初もの

雑誌の図書館大宅壮一文庫開館

●**ノーカー・デー** 東京・八王子市で実施

●**企業グループ内の結婚相談所** 三和銀行系の「みどり会ブライダルセンター」が発足。

●**宝探しの会** 名古屋市の大学教授、サラリーマンなどで結成 海岸で高価なものを探そうという会で、化石からお金まで何でもOK

●**レズのサークル** 若草の会が東京・大田区で旗揚げ 一人の女性が参加した

世界の動き

事故死？ 暗殺？ “替え玉”死亡説まで

中国現代史最大のミステリー！ “ナンバー2”林彪墜落死事件の「真相と犯人」

▲林彪ら9人が乗ったと言われる「トライデント256号機」の墜落現場。

中国・モンゴル両国が行った分析では、「空中爆発」ではなく、着陸の失敗による機体の分解、炎上であるとされた。

ナビゲーターも無線士も、副操縦士さえ搭乗していない中国のジェット機が墜落した。まもなく九つの遺体が発見されたが、そのひとつ——頭蓋骨が露出し、眼は焼けて空洞になり鼻も焼け焦げた男性——が毛沢東の後継者に指名されたほどの人物とされたことから、この“事故”は、中国の現代史最大のミステリーと言われることになる。

毛沢東の“後継者”が“暗殺未遂者”に変身

一九七一年（昭和四六）九月一三日、モンゴル人民共和国上空、五星紅旗と「二五六」という番号のついた英国製ジェット機が夜空を北の方向へ急いでいた。よほどあわてていたのか、離陸の際に右翼を滑走路脇に停車していた給油車にぶつけ、ライトガラスは砕け散ったままだった。

中国側のレーダーに確認されていたこの「トライデント二五六号機」の機影が突然消えたのが、中国国境からモンゴルに入って約四〇分ほどたった午前二時三〇分。ようやく機体が確認されたのは、ヘンティ省の省都ウンドゥルハーン付近の草地だったが、駆けつけた駐モンゴル中国大使の許文益らが発見したのは、バラバラになった飛行機の残骸と、見分けがつかないほど傷んだ男八人、女一人の遺体だった。

ここまでなら、通常の墜落事故と考えても不自然ではないだろう。ところが、発見された九体の身もとが、当時飛ぶ鳥を落とす勢いで権力の頂点に登りつめようとしていた人物とその妻、息子、側近のものだったことから、事故は一転して、中国現代史最大の“事件”と言われることになる。この人物こそ、毛沢東（七八）に次ぐナンバー2の中国共産党副主席で、党規約に「毛沢東同志の親密な戦友であり、後継者」とまで明記された林彪（六四）だった。

湖北省に生まれ、北伐戦争や長征に参加し、国民党との内戦では辺境戦で輝かしい功績を残した林彪が、政治の表舞台に登場するのは、文化大革命の発端とも言える一九五九年の第八期八中全会、いわゆる廬山会議である。この会議で解任された彭徳懐の後任として国防相に任命されたのが、「毛主席は八億人中国の心の中の最も最も赤い太陽」などの個人崇拝と軍脈を利用して台頭してきた林彪だった。文革期の林彪は、つねに“党内二位”を誇示するかのように毛にピッタリと寄り添い、公式の場に現れた。

妻の葉群（五四）は、林彪事務所の主任で党政治局委員だったが、毛沢東夫人の江青と並ぶ“文革期の二大悪女”と言われた女性。いわば、夫唱婦随で毛沢東の後釜にまで後一歩と迫っていた時に、林彪事件は起きたのである。

“事故”当時、毛沢東と林彪の“蜜月時代”に終止符が打たれていたのは間違いない。林が空席の「国家主席」の座を狙い、毛沢東の神経を逆なでしたことが直接的な原因だった。さらに、健康問題も林彪の致命傷だったようだ。「動脈硬化、腎臓病、精神機能悪化などを患い、働けるのは一日三時間。骨髄に病もあって、半身不随になる可能性もある」彼を、毛沢東は理想的な後継者とは考えていなかったからである。つまり、表面では“親しい戦友”をよそおいながら暗闘を繰り広げていたからこそ、「林彪は搭乗前に暗殺されていた」「飛行機は不時着でなくミサイルで撃ち落とされた」とさまざまな憶測が飛びかったのだった。

こうした疑惑を払拭するかのように、中国当局が、次のような公式説明を行ったのは、事件からほぼ二年後の一九七三年八月である——「一九七一年九月初め、林彪は子息の林立果（空軍司令部作戦部副部長＝二七）に指令し、北京に帰る途中の毛沢東主席を暗殺させようとしたが失敗した。そのため、九月一三日零時すぎ、林彪は妻子とともに飛行機でソ連亡命をはかったがモンゴルの砂漠に墜落、全員死亡した」。

“建国の母”周恩来も事件に深く関与!?

こうした公式報告に対し、「モンゴルの墜落現場で発見された遺体が、林彪なのかどうか疑わしい」と解説するのは、元朝日新聞上海支局長で、中国の政情に詳しい作家の伴野朗氏だ。

「私は墜落死体は林彪の“替え玉”と見ています。というのも、事件後、ソ連のグロムイコ外相が『墜落機には六〇歳以上の男性は乗っていなかった』と明言し

▲1969年4月の中国共産党九全大会（写真）は、林彪を毛沢東の後継者とすることを決定。 新華社／中国通信

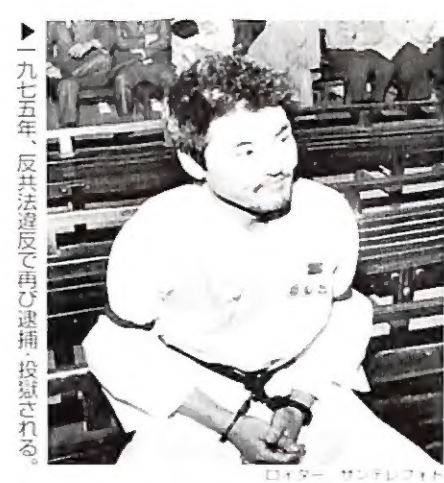
▶九月八日、林彪が書いた「クーデター指令書」。

外から見たNIPPON

三島由紀夫の自刃を罵倒した「抵抗詩人」金芝河の心情

——佐伯 修

「三島由紀夫の死に反対する。三島の死が含んでいるあらゆる意味、政治的なものであれ、芸術的なものであれ、いっさいの社会的な意味にたいして私は反対する。ただ、個人的なもの、ひとりの人間の生命の終息がもたらす悲しみのみを受けいれる」（渋谷仙太郎訳「三島由紀夫の死に反対する」）

この年の三月、韓国の詩人・金芝河は、雑誌「タリ」に、右のような書き出しで始まる短文を添えた詩「アジュッカリ神風」を発表した。それは前年の一九七〇年一一月、自刃した三島由紀夫に呼びかける形で、彼の行為を罵倒し、諷刺していた。

「どうってこたあねえよ　朝鮮野郎の血を吸って咲く菊の花さ　かっぱらっていった鉄の器を溶かして鍛え上げた日本刀さ　何が大胆だって、お前は知らなかったのか　悲壮悽惨で、まったく悽惨このうえもなく　悽惨悲壮で　悽惨な神風もどうってこたあねえよ　朝鮮野郎のアジュッカリを狂ったようにむさぼり食らい、狂っちまった風だよ（以下略）」（渋谷訳「アジュッカリ神風」）

ちなみに「アジュッカリ」とは、戦時中、日本が軍用油採取のため、朝鮮半島でも大々的に栽培したヒマのこと。

一九四一年、全羅南道木浦生まれの金は、前年、権力を痛烈に諷刺した長篇詩「五賊」により、反共法違反のかどで投獄されて以来、「抵抗詩人」として、日本でも、大いにもてはやされていた。

だが、そんな彼の、この詩における三島批判は、自衛隊に蹶起を呼びかけた三島を、短絡的に軍国主義者、植民地主義者と断じただけで、言葉のどぎつさのわりには、図式的で平板なものだと言えないだろうか。

むしろ、この詩からたちのぼってくるものは、日本による植民地支配の記憶をバネにした、民族主義的な心情、情念であり、それがこの詩にパワーを与えている。

金がこの詩を書いた翌年、「状況劇場」を率いて、金の劇団と合同公演をした唐十郎は、当局により軟禁状態に置かれていた金に、国外逃亡を誘いかけた。が、金は、「この国を僕はまだ理解してないし、愛している。逃げることはできない」と「格好よく断わった」という（「毎日新聞」一九九七年六月二日）。

思うに、金は、彼を「抵抗詩人」として称揚した人々が考えるよりも、ずっと民族主義的で宗教的な詩人である。なおかつ、倫理的で、政治的焼身自殺を批判した時のように孤立を恐れぬ点も考えると、資質的に意外と三島に近いのかもしれない。

ロイター・サンテレフォト

▶一九七五年、反共法違反で再び逮捕・投獄される。

ているんです。さらに、林彪腹心の邱会作（五七）が、事件から一二日たった二四日に、政府経済代表団を周恩来（七三）らと北京空港で見送っているのもあやしい。クーデターなら、林彪一派はすぐに一網打尽になるはずですから」

つまり「事故前に林彪は殺されていて、それを知った妻の葉群と息子の林立果が、替え玉を擁して逃亡をはかり、途中で墜落死したのが真相」と伴野氏は推測する。

一方で、権勢欲の強い葉群と林立果が、病弱な林彪に知らせないまま、毛暗殺やソ連亡命をくわだてたという見方もある。これは「父は亡命寸前まで睡眠薬で眠りこんでいた。意識朦朧のまま飛行機に乗せられたのだ」（「海南記実」一九八八年第三号）という林彪の娘・林立立の証言による説だ。

真相はどうであれ、林彪を乗せた飛行機の墜落事件は、ナンバー2を追放したい人物にとって"渡りに船"の出来事だったに違いない。結果的に、林彪一派は役者が一枚も二枚も上の"相手"に踊らされて墓穴を掘り、粛清されたからだ。そして、意外にも、"事件"の真相に限りなく近い人物として伴野氏が指摘するのが"建国の母"と言われた周恩来である。

▲林彪と長男の林立果（中央）。空軍司令部作戦部副部長の立果は毛沢東暗殺計画を立案した。

◀林彪の妻・葉群（中央）。病身の夫に代わりグループを事実上差配し、「女元帥」と言われた。

「事件当夜、事前にレーダー網を張りめぐらせて飛行機の動きを把握していたのも、事件後の後始末を一手に引き受けたのも周恩来でした。当時、米中の国交正常化や中日関係の確立に腐心していた周恩来にとって、林彪はある種の障害物だったんです。ソ連との関係を悪化させる米中接近に最も反対していたのは、林彪だったわけですから」

実際のところ、林彪事件によって周恩来は、邪魔者がなくなり、米中国交の正常化、日中国交の回復に成功した。

全人民の敬愛を一身に集めた周恩来が本当に事件に関与していたとなれば、中国政府が林彪事件の真相を明らかにすることは、今後もまずないだろう。林彪事件は、永遠の"ミステリー"として中国現代史の闇に葬られることになる。

往きて還らぬ

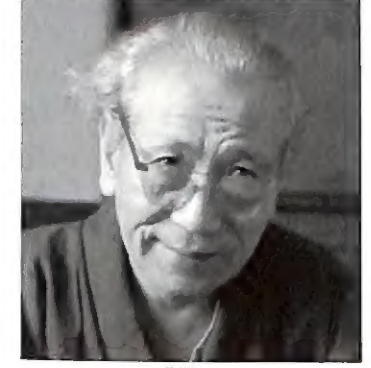
▲9月11日　ニキータ・フルシチョフ(77)
ソ連の政治家。1958年首相となり、翌年ソ連の指導者として初めて訪米、米大統領と会談した。1964年失脚。

▲10月21日　志賀直哉(88)
小説家。白樺派の一人。代表作の「暗夜行路」は不朽の名作と言われ、昭和24年文化勲章受章。ほかに「城の崎にて」。

▲11月14日　金田一京助(89)
言語学者。アイヌ文化研究の第一人者で、歌人・石川啄木の親友としても知られる。昭和29年文化勲章受章。

毎日新聞社

▲7月6日　L・アームストロング(71)
"サッチモ"の愛称で親しまれたアメリカのジャズ・トランペット奏者。ソロの演奏スタイルを確立した。

▲7月12日　山下清(49)
画家。養護施設で制作した貼絵が注目をあび、後に各地を放浪、詩情あふれる独特の絵を描いた。画集に「山下清画集」。

▲8月1日　徳川夢声(77)
活動弁士から俳優に転じ、映画、舞台で活躍。昭和14年ラジオで「宮本武蔵」を朗読し、"絶品の語り"と称賛された。

▲8月17日　大川博(74)
元東映社長。昭和26年社長に就任、第二東映を作って時代劇、任侠ものを量産。萬屋錦之介などスターも育てた。

▲4月6日　I・ストラヴィンスキー(88)
ロシアの作曲家。バレエ音楽で知られ、「火の鳥」「ペトルーシュカ」「春の祭典」は三大バレエ曲と言われる。

▲5月24日　平塚らいてう(85)
社会運動家。明治44年「青鞜」発刊、「元始、女性は太陽であった」の創刊の辞は、女性解放運動の原点となった。

▲6月16日　松永安左ヱ門(95)
実業家。明治42年福博電気軌道、大正11年には東邦電力を設立し"電力の鬼"と呼ばれた。茶人としても有名。

▲1月10日　ガブリエル・シャネル(87)
"ココ・シャネル"の愛称で知られる、フランスのファッション・デザイナー。香水の「シャネルNo.5」でも有名。

▲3月8日　ハロルド・ロイド(77)
無声映画時代のアメリカの喜劇スター。丸いロイド眼鏡で人気を呼んだ。主演作に「ロイドの活動狂」など。

▼3月21日　横山エンタツ(74)
漫才師。昭和5年花菱アチャコと組んで"しゃべくり漫才"で人気を集めた。映画や舞台でも活躍（左から二人目）。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第30号 9月9日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1973［昭和48年］

●特集
女性週刊誌までが特集を組んだ怪物ハイセイコーの"不敗神話"／オイル・ショックで「モノ不足パニック」日本列島"トイレットペーパー狂騒曲！"／視聴率五〇％を超えた"超お化け番組"「8時だョ！全員集合」の秘密／スパイ小説を地でいく日韓"誘拐劇"白昼、二二一二号室から金大中が消えた！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…パリでベトナム和平協定調印(1月27日)／高崎線上尾駅で乗客が暴動(3月13日)／選抜高校野球で「怪物」江川旋風(3月)／吉永小百合結婚(8月3日)／第四次中東戦争勃発(10月6日)／巨人、V9達成(11月1日)／熊本・大洋デパート火災(11月29日)

●人物クローズアップ
瀬戸内寂聴、突然の出家

●決定的瞬間
チリ・アジェンデ大統領のラスト・ショット

●美の出会い
いわさきちひろ「戦火のなかの子どもたち」

●女たちの肖像…田中真理、ロマンポルノに体当たり／勝者・敗者…"横紙破り横綱"輪島／証言・あの日この日…大佛次郎、鎌田慧／20世紀博物館…東京都水の科学館(東京)／「現場」を歩く…新宿超高層ビル群の四半世紀／外から見たNIPPON…作家・黄春明と"売春ツアー"

●ベストセラー…「日本沈没」三五〇万部突破／スターと名場面…菅原文太主演「仁義なき戦い」／モノ語り73…「ごきぶりホイホイ」「押すだけ」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号1959[昭和34年] 第2号1964[昭和39年] 第3号1945[昭和20年] 第4号1970[昭和45年] 第5号1963[昭和38年] 第6号1958[昭和33年] 第7号1972[昭和47年] 第8号1980[昭和55年]

第9号1976[昭和51年] 第10号1989[平成元年] 第11号1960[昭和35年] 第12号1961[昭和36年] 第13号1962[昭和37年] 第14号1965[昭和40年] 第15号1966[昭和41年] 第16号1967[昭和42年]

第17号1968[昭和43年] 第18号1969[昭和44年] 第19号1941[昭和16年] 第20号1942[昭和17年] 第21号1943[昭和18年] 第22号1944[昭和19年] 第23号1946[昭和21年] 第24号1947[昭和22年]

第25号1948[昭和23年] 第26号1949[昭和24年] 第27号1950[昭和25年] 第28号1923[大正12年]

■今後の刊行予定

▶第31号1974(昭和49年)9月16日発売
少女マンガの黄金時代●"金脈"をあばいた立花レポートで田中首相辞任へ●セブン-イレブン開店●ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任

▶第32号1975(昭和50年)9月22日発売
赤ヘル軍団初優勝●「紅茶きのこ」と健康法ブーム●中国の秦始皇帝陵で兵馬俑発掘●サイゴン陥落！30年にわたる"ベトナム戦争"終結

▶第33号1977(昭和52年)9月30日発売
キャンディーズとピンク・レディー旋風●王貞治、ホームラン世界一を達成●"安宅マン"3600人の悲劇●ウガンダ、アミン政権の残虐恐怖政治

▶第34号1978(昭和53年)10月7日発売
日本全土で、カラオケ爆発的ブーム●新実力者・鄧小平来日●「サラ金地獄」で自殺者180人！●英国で世界初の試験管ベビー・ルイーズちゃん誕生

▶第35号1979(昭和54年)10月21日発売
インベーダーゲーム、大流行●「ジャパン・アズ・ナンバーワン」刊行●大ヒット商品「ウォークマン」開発物語●ホメイニ師、イランに帰国

ミニ事典
1971年のキーワード

再販商品ボイコット
再販商品とは小売価格をメーカーが指示できる商品。ブランドの信用や品質を維持し、小売業者の利益を保護するとの目的で、法定の著作物とは別に、化粧品・医薬品などについて公取委が指定・許可していた。しかし、値上げの自動的認可、高値安定をともなうとして、地婦連・主婦連などが反対、一月三〇日、ボイコット運動を起こした。後、公取委は制度の見直しをはかり、平成一〇年の指定全廃を決定した。

代執行
共同通信社
▲鎖で身体を立ち木に縛って代執行に抵抗した三里塚・芝山反対同盟の婦人行動隊。

行政上の義務が履行されず、その不履行の放置が著しく公益に反すると認められる場合に、行政庁みずからが義務者のなすべき行為を代わって行うこと。昭和四一年に閣議決定された新東京国際空港建設で成田市の農民らが土地収用を拒否、四五年、千葉県は権利放棄・明け渡しを要求し、ついに四六年二月二二日、第一次の代執行に踏み切った。また、同年九月には第二次代執行も行われた。

株式公開買い付け(TOB)
企業経営権を確保するため、必要な株式の買い付けを公表、証券市場外で取り引きすること。株価を高騰させずに、短期に必要な株式を取得できる利点がある。企業国際化の一環として三月三日の証券取引法改正公布で制度化された。しかし、この事前届け出制では相手方に防戦する機会を与えるとして、後、五パーセントを超える実質的株式保有者にのみ報告義務を課す「五パーセントルール」に改められた。

裁判官再任拒否
最高裁が、宮本康昭判事補の希望に反して、裁判官再任を拒否した事件。その理由が宮本の青年法律家協会(青法協)加盟とみられたため、思想・信条の自由を侵すものとして問題になった。青法協は従来から、裁判の左翼偏向の中心として右翼、政府与党から強い非難をあびていた。

共同通信社
▲4月5日、最高裁に裁判官任官拒否問題で抗議デモをする司法修習生。

アンノン族
前年の平凡出版の「an・an」に続き、五月二五日に集英社から「non・no」が創刊された。一〇代後半から二〇代初めの女性を対象に、流行の先端を提示して部数を伸ばした。二誌とも国鉄のキャンペーン「ディスカバー・ジャパン」にあわせた旅行情報を満載したことから、雑誌を小脇に旅行する若い女性が続出、「アンノン族」と言われた。

▲「non・no」発売当日の新聞掲載広告。若い女性の雑誌として今なお健在。

日本株式会社
日本は政府と財界が一体となって外国企業と競争し、まるでひとつの会社のようだということ。六月一六日から一八日までワシントンで行われた日米財界人会議でアメリカ側財界人が初めて指摘。以降しばしば使われるようになり、通産省を核とする日本の官産融合システムに批判が集中したが、高度成長の秘密として高く評価する見方もあった。

対米繊維輸出規制要綱
日米間で高まる繊維摩擦の中で、日本繊維産業連盟が自主的に打ち出した対米輸出の規制方針。毛・綿・合成繊維全製品の輸出量を三年間、五～六パーセントの伸び率におさえるなどとし、七月一日から実施。しかし、アメリカは政府間協定を要求、日本は翌年、対米輸出を三年間自主規制することに決めた。

頭越し外交
アメリカが日本政府を無視して行った対中接近政策。この年四月、中国が米国卓球選手団の招待を発表、"ピンポン外交"と騒がれたが、七月には米大統領補佐官キッシンジャーが訪中、翌年五月までのニクソン大統領訪中合意を発表した。しかし、この一連の両国の外交について日本政府はまったく知らされていなかった。

風成訴訟
大分県臼杵市の海岸地帯、風成地区に工場を建設しようとしていた大阪セメント会社の要請ですでに漁業権を放棄していた市漁協と埋め立て免許を与えた県に対して、反対派漁民らが起こした漁業権確認、公有水面埋め立て免許取消訴訟。七月二〇日、大分地裁は原告勝訴の判決を下した。被告は控訴したが、翌々年、福岡高裁も一審を支持、反対派が勝利した。

ニアミス
衝突や接触するおそれがあるくらい飛行機同士が異常接近すること。七月三〇日、全日空機が岩手県雫石上空で航空自衛隊ジェット機と衝突、全日空機の乗員乗客全員が死亡するという事故が起こった。原因は自衛隊機が定期航空路に侵入したためだったが、これ以降、この言葉がさかんに使われるようになり、二基しかなかった航空路管制レーダーが一〇年間に九基にふえるなど航空路レーダー情報システムが強化された。

▲自衛隊機事故で増原恵吉防衛庁長官が辞任。

アパートローラー作戦
この年に相次いだ、日本石油本館内郵便局での小包爆弾事件、警視庁土田警務部長邸小包爆弾事件、新宿の追分派出所でのクリスマス・ツリー爆弾事件などに対し、警視庁が一二月一七日に発足させた極左暴力取締本部が犯人検挙のために行った捜査方法を言う。アジト摘発のため、ローラーをかけるようにアパートの一戸一戸を訪問した。この捜査に対し、日弁連などは任意捜査の限界を超えると批判した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1971
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順 吉田忠正

●写真協力
石井美雄 石ノ森章太郎 岡村春彦 キム・ドン・ジュン 塩田武史 但馬一憲 野上透 浜口タカシ 朝日新聞社 共同通信社 CORBIS・BETTMANN サンテレフォト 時事通信社 新華社 タス 中央公論社 中国通信社 日刊スポーツ PPS ブロボウリング社 ベースボール・マガジン社 北海道新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 ロイター WWP えとせとらレコード博物館 大島渚プロダクション 佐下キョウイチ東京ムービー 松竹 株ダーバン 東芝 東芝EMI 日活 日本ケンタッキーフライドチキン 日本マクドナルド フジオプロダクション 中国文化省 日本玩具資料館 日本プロボウリング協会 プラド美術館

第1巻第29号 通巻29号
編集人 近藤達士
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23703-9/16 Ⓛ-2001/1/1
T1123703090563

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社